

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	多項式開散、指数関数、対数関数(「情報社会のサービス企画」2回目)／関数の極値と微分の関係、積分と面積の関係(「情報社会のサービス企画」2回目)／「実数取捨の手法」法、除法(「情報社会のサービス企画」2回目)／ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍、内積(「情報社会のサービス企画」2回目)／行列の演算、行列の和とスカラー倍、行列の積(「情報社会のサービス企画」2回目)／並行列(「情報社会のサービス企画」2回目)／ベクトルと行列・固有値と固有ベクトル(「情報社会のサービス企画」2回目)／多次方程式(「情報社会のサービス企画」2回目)／複素数、正則関数(「情報社会のサービス企画」2回目)
	1-7	アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図)(「情報社会のサービス企画」3回目)／並び替え(ソート)、探索(サーチ)(「情報社会のサービス企画」3回目)
	2-2	コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)(「情報社会の分析と理解」9回目)
	2-7	文字型、整数型、浮動小数点型(「情報社会の分析と理解」13回目「基礎プログラミングA」12回目、「基礎プログラミングB」12回目、「プログラミング入門」12回目)／変数、代入、四則演算、論理演算(「基礎プログラミングA」12、4回目、「基礎プログラミングB」12、4回目、「プログラミング入門」12回目)／配列、関数、引数、戻り値(「基礎プログラミングA」3、10、11回目「基礎プログラミングB」3、10、11回目)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	データ駆動型社会、Society5.0(「情報社会の分析と理解」11回目)／データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)(「情報社会の分析と理解」11回目)
	1-2	データ分析の基の方、仮説検証サイクル(「情報社会の分析と理解」2回目、「プログラミング入門」13回目、「メディア調査研究法A(量的調査研究の技法)」10回目、4回目、5回目、6回目)／分析目的の特定(「メディア調査研究法A(量的調査研究の技法)」11回目)／様々なデータ分析手法(回帰、分岐、クラスターリングなど)(「プログラミング入門」13回目、「メディア調査研究法A(量的調査研究の技法)」13回目)／様々なデータ可視化手法(柱状、構成、分散、並列など)(「プログラミング入門」13回目、「メディア調査研究法A(量的調査研究の技法)」14回目)／データの収集、加工、分析(「基礎プログラミングA」13回目、「基礎プログラミングB」13回目、「メディア調査研究法A(量的調査研究の技法)」11回目、12回目)
	2-1	ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ(「情報社会の分析と理解」8回目)／ビッグデータの活用事例(「情報社会の分析と理解」8回目)／コンピューターの構成、動作、性能(「基礎プログラミングA」1「基礎プログラミングB」17回目)／ネットワーク(「基礎プログラミングA」1「基礎プログラミングB」17回目)
	3-1	AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム(「情報社会の分析と理解」10回目)
	3-2	AI倫理、AIの社会受容性(「情報社会の分析と理解」11回目)／プライバシー保護、個人情報情報の取り扱い(「情報社会の分析と理解」11回目、「基礎プログラミングA」1「基礎プログラミングB」17回目)
	3-3	実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、異常検知、商品推薦など)(「情報社会のサービス企画」16回目)／機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習(「情報社会のサービス企画」16回目)
	3-4	実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)(「情報社会のサービス企画」8回目)／ニューラルネットワークの原理(「情報社会のサービス企画」8回目)
	3-5	実世界で進む生成AIの応用と革新(対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など)(「情報社会のサービス企画」9回目)
	3-10	AIの学習と推論、評価、再学習(「情報社会のサービス企画」5回目)
(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用 企画・実施・評価」から構成される。	I	文字型、整数型、浮動小数点(「基礎プログラミングA」12回目、「基礎プログラミングB」12回目、「プログラミング入門」12回目)／変数、代入、四則演算、論理演算(「基礎プログラミングA」12、4回目、「基礎プログラミングB」12、4回目、「プログラミング入門」12回目)／配列、関数、引数、戻り値(「基礎プログラミングA」13、10、11回目、「基礎プログラミングB」13、10、11回目)／オブジェクト指向プログラミング(「基礎プログラミングA」12、13回目、「基礎プログラミングB」12、13回目、「プログラミング入門」14、9回目)
	II	データ分析の基の方、仮説検証サイクル(「プログラミング入門」13回目、「メディア調査研究法A(量的調査研究の技法)」10回目、4回目、5回目、6回目)／分析目的の特定(「メディア調査研究法A(量的調査研究の技法)」11回目、5回目)／様々なデータ分析手法(回帰、分岐、クラスターリングなど)(「プログラミング入門」13回目、「メディア調査研究法A(量的調査研究の技法)」13回目)／様々なデータ可視化手法(柱状、構成、分散、並列など)(「プログラミング入門」13回目、「メディア調査研究法A(量的調査研究の技法)」14回目)／データの収集、加工、分析(「基礎プログラミングA」13回目、「基礎プログラミングB」13回目、「メディア調査研究法A(量的調査研究の技法)」11回目、12回目)／コンピューターの構成、動作、性能(「基礎プログラミングA」1「基礎プログラミングB」17回目)／ネットワーク(「基礎プログラミングA」1「基礎プログラミングB」17回目)／プライバシー保護、個人情報情報の取り扱い(「基礎プログラミングA」1「基礎プログラミングB」17回目)

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

高度情報社会においてデータサイエンスを実践するための知識とスキル

(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	241	人
(非常勤)	565	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

6	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	川合康央
(役職名)	情報学部・学部長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	情報学部教務委員会
------	-----------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	学部教務委員会規程
------	-----------

⑥ 体制の目的

学部教務委員会は、学則の定める学部の目的に添って、学部の教務に関する次の事項について審議する。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 授業計画に関する事項
- (3) 定期試験に関する事項
- (4) 進級及び卒業に関する事項
- (5) 成績及び履修に関する事項
- (6) その他教務に関して学部が必要と認めた事項

⑦ 具体的な構成員

情報学部教務委員長 大橋洸太郎
 情報学部教務委員 梶並知記
 情報学部教務委員 勝久晴夫

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	22%
令和8年度予定	30%
令和9年度予定	40%
令和10年度予定	50%
令和11年度予定	60%

具体的な計画

【令和8年度】令和8年度の情報学部の入学生については、データサイエンス学科は本プログラムに含まれる科目をすべて学科必須科目に指定した。情報システム学科、メディア表現学科では、本プログラムに含まれる科目をすべて自学科開講科目として履修ができるようにした。

【令和9年度～令和11年度】令和9年度以降はデータサイエンス学科のすべての学生が本プログラムを履修するため、年度を追うごとに本プログラムの履修率は向上するだろう。同時に授業内容の改善のために、教務委員会で履修・修得状況、授業アンケートなどを検討をしたり、本プログラムを積極的に広報したりすることにより学生の理解や関心を高めるように努める。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

3学科共通で開講している2科目(4単位)についてはオンデマンド教材を用いた授業を実施している。そのため、他の授業と時間割が重複する、履修者数が教室の座席数をオーバーするなどといった制約がないので、希望する学生が履修しやすいようになっている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

4月のガイダンスで周知をしている。加えて履修登録時期にポータルサイトでも周知をしている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

3学科共通で開講している2科目(4単位)についてはオンデマンドで開講し、時間や場所を問わず受講する環境を整えている。オンデマンド教材を用意しているので、学生は自分自身が理解できない点については繰り返し視聴することができる。その結果、授業内容についての理解が深まることが期待できる。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学では全科目で学習管理システムを用いている。学生から学習管理システム内に設置している掲示板で質問を受け付けている。掲示板への質問が躊躇される場合には、担当教員へのメールでの質問も受け付けている。それ以外にオフィスアワーの時間に担当教員に對面で質問や指導を受け付ける機会も設けている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

情報学部教務委員会

(責任者名) 大橋洸太郎

(役職名) 情報学部教務委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	教育支援課にて本プログラムを構成する授業の履修者数や成績の管理を行っている。これらのデータについては情報学部教務委員会にて共有し、本プログラムの評価や改善に活用している。
	学修成果	情報学部教務委員会にて、本プログラムに関わる授業の履修・修得状況(成績評価を含む)を確認する。これらのデータをもとに学修成果を検討している。
	学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	本プログラムに関する授業について、学期末に実施する授業アンケート、成績評価を参考に、学生の理解度を分析する。
	学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	本プログラムに関する授業について、学期末に実施する授業アンケートの回答を参考に、他の学生への履修の推奨度について分析する。
	全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	4月に行われるガイダンスや、履修登録時期においてポータルサイトを用いた周知などを行い、履修者数・履修率の向上を図っている。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、 活躍状況、企業等の評価	今後、本プログラムを評価・改善するために、修了した卒業生の就職先等を分析する。
	産業界からの視点を含めた教育 プログラム内容・手法等への意見	今後、AIやデータ解析に関わる企業などからのヒアリングなどを行い、本プログラムの内容や実施方法について改善を図る。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		Society5.0時代におけるデータサイエンスの活用事例、ビッグデータの活用事例、AIの応用事例などをとりあげることで、数理・データサイエンス・AIを学び、社会で実践することの意義を理解させている、同時に、活用事例、応用事例をできる限り取り上げることで、データサイエンスやAIを学ぶ楽しさを促進している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		学期末に実施する授業アンケートを参考に、学生にとって「わかりやすい」授業になっているかどうかを検討する。必要に応じて授業内容および実施方法を見直しを検討している。

開講科目名／Course	情報社会の分析と理解／Analysis and Understanding for Information Society
時間割コード／Course Code	P40C2091A
時間割所属／Course Offered by	湘南キャンパス／
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 春学期／Spring Semester
開講区分／semester offered	春学期／Spring Semester
単位数／Credits	2.0
学年／Year	2,3,4
主担当教員／Main Instructor	大橋 洸太郎
担当教員名／Instructor (担当教員所属名／Affiliation)	大橋 洸太郎（データサイエンス学科／）
サブタイトル ／Subtitle	
研究室 ／Laboratory	5406研究室
連絡先 ／Contact address	kohashi@bunkyo.ac.jp
授業概要 ／Course Overview	この授業は、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベルに準拠した、データサイエンス(DS)の科目である。応用基礎レベルは3部構成であり、それぞれ「1.AI基礎」「2.データサイエンス基礎」「3.データエンジニアリング基礎」からなっている。本授業では、秋学期科目「情報社会のサービス企画」に続く内容となるように、特にデータサイエンス・データエンジニアリングの分野に焦点を当てながら、この分野への理解を深める。授業は動画や配布資料、Excelを利用して行う予定である。 以下の「授業計画」中の☆印は教育プログラムで指定されたコア学修項目、※印基盤学修項目を指す。
到達目標 ／Goals	(1) データサイエンス 応用基礎レベルに相当する基本的な知識を説明できる。 (2) データの内容を把握し、その傾向を理解することができる。 (3) 関連する統計手法を理解し、実践することができる。
授業外での学修（予習・復習） ／Study outside of class (preparation and review)	予習：授業で取り上げる事項について授業で紹介する参考文献をもとに調べておく。 復習：授業で説明した事項を理解しているかどうかについて、ノートを見返したり参考文献を読んだりして確認する。コンピュータソフトの使用方法については自分で操作し習熟を確認する
授業外学修時間 ／Study time outside of class	各授業回の事前事後で4時間以上の授業外学修を要する。
評価方法 ／Evaluation method	試験（60％）と授業内課題・授業参加の姿勢（40％）で評価する。
評価基準 ／Evaluation criteria	AA：DS分野の応用基礎レベルの内容に関して十分な知識を有しており、統計ソフトに関しても不自由なく使用でき、結果の読み取りも正確にできる。 A：DS分野の応用基礎レベルの内容に関して知識を有しており、統計ソフトに関しても不自由なく使用でき、結果の読み取りもある程度できる。 B：DS分野の応用基礎レベルの内容に関して主要な知識を有しており、統計ソフトに関してもある程度使用することができ、結果の読み読み取りも基本的なものについてはある程度できる。 C：DS分野の応用基礎レベルの内容に関して最低限の知識を得ており、統計ソフトに関しても最低限の使用方法については理解していて、結果の読み取りもごく単純なものについてはある程度できる。 D：DS分野の応用基礎レベルの内容に関して理解、および統計ソフトの使用法とその結果の読み取りについての理解がいずれも不十分である。
フィードバック ／Feedback	授業期間内に小テストを2回行う。
授業で使用するテキスト ／Textbooks used in the class	授業中に指示する。
参考書 ／References	・川源四郎・竹村彰通（編） 応用基礎としてのデータサイエンス AI×データ活用の実践 講談社 ・岡田朋子（著） 数理・データサイエンス・AIのための数学基礎 近代科学社

受講者へのメッセージ ／Message to participants	Microsoft Excel が使える環境を各自用意してください。
実務経験のある教員に関する情報 ／Information about teachers with work experience	

授業計画詳細／Course schedule

回	内容	備考
1	☆データ駆動社会とデータサイエンス Society 5.0時代のデータサイエンスの活用事例	
2	☆分析設計 データ分析の進め方 分析の設計方法	
3	データの収集と観察 データの集計 ばらつき ヒストグラム クロス集計 散布図	
4	データの加工 集計処理 データクレンジング（外れ値、異常値、欠損値）	
5	データの分析 単回帰分析 重回帰分析	
6	データの可視化 可視化の目的に応じた図表の作成 様々なグラフ	
7	1回目～6回目のまとめ	
8	☆ビッグデータとデータエンジニアリング ICTの進展とビッグデータ ビッグデータの活用事例	
9	☆データの表現とAIの応用分野 コンピュータで扱うデータ AIへの応用事例	
10	☆AIの歴史 AIの誕生から現在まで	
11	☆AIと社会 AI倫理と社会的受容性 プライバシーの保護と個人情報	
12	ITセキュリティ セキュリティの3要素（機密性、完全性、可用性） データの暗号化と復号	
13	※プログラミング基礎 文字型、整数型、浮動小数点型 変数の処理と四則演算 論理演算 関数	
14	8回目～13回目のまとめ	
15	全体のまとめ	

開講科目名／Course	情報社会のサービス企画／Planning of Service in Information Society
時間割コード／Course Code	P40C2181A
時間割所属／Course Offered by	湘南キャンパス／
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 秋学期／Autumn Semester
開講区分／semester offered	秋学期／Autumn Semester
単位数／Credits	2.0
学年／Year	2,3,4
主担当教員／Main Instructor	大橋 洸太郎
担当教員名／Instructor (担当教員所属名／Affiliation)	大橋 洸太郎（データサイエンス学科／）
サブタイトル ／Subtitle	
研究室 ／Laboratory	5406研究室
連絡先 ／Contact address	kohashi@bunkyo.ac.jp
授業概要 ／Course Overview	この授業は、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベルに準拠した、データサイエンス(DS)の科目である。応用基礎レベルは3部構成であり、それぞれ「1.AI基礎」「2.データサイエンス基礎」「3.データエンジニアリング基礎」からなっている。本授業では、春学期科目「情報社会の分析と理解」に続いて、特にAI技術とそれを支える諸科学に焦点を当てながら、データサイエンス分野への理解を深める。授業は動画や配布資料、Excelを利用して行う予定である。 以下の「授業計画」中の☆印は教育プログラムで指定されたコア学修項目、※印基盤学修項目を指す。
到達目標 ／Goals	(1) データサイエンス 応用基礎レベルに相当する基本的な知識を説明できる。 (2) データの内容を把握し、その傾向を理解することができる。 (3) 関連する統計手法を理解し、実践することができる。
授業外での学修（予習・復習） ／Study outside of class (preparation and review)	予習：授業で取り上げる事項について授業で紹介する参考文献をもとに調べておく。 復習：授業で説明した事項を理解しているかどうかについて、ノートを見返したり参考文献を読んだりして確認する。コンピュータソフトの使用方法については自分で操作し習熟を確認する
授業外学修時間 ／Study time outside of class	各授業回の事前事後で4時間以上の授業外学修を要する。
評価方法 ／Evaluation method	試験（60％）と授業内課題・授業参加の姿勢（40％）で評価する。
評価基準 ／Evaluation criteria	AA：DS分野の応用基礎レベルの内容に関して十分な知識を有しており、統計ソフトに関しても不自由なく使用でき、結果の読み取りも正確にできる。 A：DS分野の応用基礎レベルの内容に関して知識を有しており、統計ソフトに関しても不自由なく使用でき、結果の読み取りもある程度できる。 B：DS分野の応用基礎レベルの内容に関して主要な知識を有しており、統計ソフトに関してもある程度使用することができ、結果の読み取りも基本的なものについてはある程度できる。 C：DS分野の応用基礎レベルの内容に関して最低限の知識を得ており、統計ソフトに関しても最低限の使用方法については理解していて、結果の読み取りもごく単純なものについてはある程度できる。 D：DS分野の応用基礎レベルの内容に関して理解、および統計ソフトの使用法とその結果の読み取りについての理解がいずれも不十分である。
フィードバック ／Feedback	授業期間内に小テストを2回行う。
授業で使用するテキスト ／Textbooks used in the class	授業中に指示する。
参考書 ／References	・川源四郎・竹村彰通（編） 応用基礎としてのデータサイエンス AI×データ活用の実践 講談社 ・岡田朋子（著） 数理・データサイエンス・AIのための数学基礎 近代科学社

受講者へのメッセージ ／Message to participants	Microsoft Excel が使える環境を各自用意してください。
実務経験のある教員に関する情報 ／Information about teachers with work experience	

授業計画詳細／Course schedule

回	内容	備考
1	情報社会におけるAI技術 様々なサービスやビジネスで用いられるAI	
2	※数学基礎 確率 代表値 散布度 相関係数 相関関係と因果関係	
3	※アルゴリズム アルゴリズムの表現方法（フローチャート） 並び替えと探索	
4	データベース テーブル定義 ER図 リレーショナルデータベース	
5	☆AIの構築と運用 AIの学習と推論、評価、再学習	
6	☆機械学習の基礎と展望 実世界で進む機械学習の応用と発展 教師あり学習と教師なし学習	
7	1回目～6回目までのまとめ	
8	☆深層学習の基礎と展望 実世界で進む深層学習の応用と革新 ニューラルネットワーク	
9	☆生成AIの基礎と展望 実世界で進む生成AIの応用と革新 自己教師あり学習	
10	AIによる認識技術 認識技術の活用事例 パターン認識 特徴抽出 識別	
11	AIによる予測と判断 予測技術の活用事例 決定木 ランダムフォレスト	
12	AIによる自然言語処理 自然言語処理の活用事例 形態素解析 単語分割 係り受け解析	
13	AIとロボット技術 家庭用ロボット 産業用ロボット サービスロボット	
14	8回目～13回目までのまとめ	
15	全体のまとめ	

開講科目名／Course	基礎プログラミングA(PM6)／Introduction to Programming A
時間割コード／Course Code	P30A2031A
時間割所属／Course Offered by	湘南キャンパス／
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 春学期／Spring Semester
開講区分／semester offered	春学期／Spring Semester
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2,3,4
主担当教員／Main Instructor	阿部 秀尚
担当教員名／Instructor (担当教員所属名／Affiliation)	阿部 秀尚 (情報システム学科／)
サブタイトル ／Subtitle	
研究室 ／Laboratory	3308
連絡先 ／Contact address	manabaに掲載する。
授業概要 ／Course Overview	プログラミングがなければ情報社会は成り立ちません。この授業ではプログラミング言語 "Python" を使ってプログラミングの基本的な考え方や作り方を学びます。Pythonは、近年、機械学習やディープラーニング（深層学習）の分野で注目を浴びているだけでなく、国家試験の基本情報技術者試験でも採用されるなど教育分野での活用も期待されています。また、オブジェクト指向言語でもあり、高学年のプロジェクト演習でのソフトウェア開発にも活用できる高い汎用性もあります。プログラミング初心者を対象としますが、経験ある学生は基本を確認する機会として履修をするようにしてください。
到達目標 ／Goals	Pythonの基礎的なプログラミンができるようになること。
授業外での学修（予習・復習） ／Study outside of class (preparation and review)	教科書を用いた講義の予習をすることが望ましいが、各回の講義内容に関し、次の講義までに、ノートや教科書を用いた復習を優先すること。
授業外学修時間 ／Study time outside of class	各授業回の事前事後で合わせて4時間以上の授業外学修を要する。
評価方法 ／Evaluation method	毎回の授業で出すプログラミング課題の提出状況と、期末試験により評価する。
評価基準 ／Evaluation criteria	毎回の授業で出すプログラミング課題と期末試験の点数を合算し、60%以上で合格とする。
フィードバック ／Feedback	提出された課題の模範解答を適宜公開し、学修内容の深化を促す。
授業で使用するテキスト ／Textbooks used in the class	独習Python, 山田 祥寛 (著), 翔泳社
参考書 ／References	必要となる場合は、授業内で紹介します。
受講者へのメッセージ ／Message to participants	皆さんは将来、上流工程に関わるSEになるかもしれません。その際、プログラミングを知らなければ優秀なSEにはなれないでしょう。また、プログラミングを学習することで、物事を論理的に分析する力や、粘り強く課題を解決する能力も身に着けられます。これらは、将来社会人となる、皆さんにとって、単なるスキルではなく、これからの時代を生きるための重要な教養として大きな価値を持つものです。ぜひ頑張ってこの学びを楽しんでください。

実務経験のある教員に関する情報
／ Information about teachers
with work experience

--

授業計画詳細／Course schedule

回	内容	備考
1	イントロダクション： ガイダンスとPythonのルール	
2	Pythonの基本： 変数とデータ型	
3	演算子： 算術演算子，代入演算子，比較演算子，論理演算子，ビット演算子，演算子の優先順位と結合則	
4	制御構文： 条件分岐，繰り返し処理，ループの制御，例外処理	
5	これまでの総合課題①	
6	開発環境の準備 標準ライブラリ 基本： ライブラリの分類，日付／時刻のデータ型と計算	
7	標準ライブラリ コレクション： シーケンス型（配列），辞書（dict）型，セット（集合）型 ファイルによる入力、文字列操作と正規表現	
8	標準ライブラリ その他： シーケンス型と辞書型を用いた複雑なデータの取り扱い データの視覚化、ファイルへの出力	
9	これまでの総合課題②	
10	ユーザー定義関数： ユーザー定義関数の基本，変数の有効範囲（スコープ），引数のさまざまな記法，関数呼び出しと戻り値	
11	ユーザー定義関数 応用： デコレーター，ジェネレーター，関数のモジュール化，非同期処理，ドキュメンテーション	
12	オブジェクト指向構文： クラスの定義，カプセル化，継承，ポリモーフィズム	
13	オブジェクト指向構文 応用： 例外処理，特殊メソッド，データクラス，イテレーター，メタクラス	
14	これまでの総合課題③	
15	総合復習	

開講科目名／Course	基礎プログラミングA(PM7)／Introduction to Programming A
時間割コード／Course Code	P30A2031B
時間割所属／Course Offered by	湘南キャンパス／
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 春学期／Spring Semester
開講区分／semester offered	春学期／Spring Semester
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2,3,4
主担当教員／Main Instructor	武藤 剛
担当教員名／Instructor (担当教員所属名／Affiliation)	武藤 剛 (情報システム学科／)
サブタイトル ／Subtitle	
研究室 ／Laboratory	3309
連絡先 ／Contact address	muto@bunkyo.ac.jp
授業概要 ／Course Overview	プログラミングがなければ情報社会は成り立ちません。この授業ではプログラミング言語 "Python" を使ってプログラミングの基本的な考え方や作り方を学びます。Pythonは、近年、機械学習やディープラーニング（深層学習）の分野で注目を浴びているだけでなく、国家試験の基本情報技術者試験でも採用されるなど教育分野での活用も期待されています。また、オブジェクト指向言語でもあり、高学年のプロジェクト演習でのソフトウェア開発にも活用できる高い汎用性もあります。プログラミング初心者を対象としますが、経験ある学生は基本を確認する機会として履修をするようにしてください。
到達目標 ／Goals	Pythonの基礎的なプログラミンができるようになること。
授業外での学修（予習・復習） ／Study outside of class (preparation and review)	教科書を用いた講義の予習をすることが望ましいが、各回の講義内容に関し、次の講義までに、ノートや教科書を用いた復習を優先すること。
授業外学修時間 ／Study time outside of class	各授業回の事前事後で合わせて4時間以上の授業外学修を要する。
評価方法 ／Evaluation method	毎回の授業で出すプログラミング課題の提出状況と、期末試験により評価する。
評価基準 ／Evaluation criteria	毎回の授業で出すプログラミング課題と期末試験の点数を合算し、60%以上で合格とする。
フィードバック ／Feedback	提出された課題の模範解答を適宜公開し、学修内容の深化を促す。
授業で使用するテキスト ／Textbooks used in the class	独習Python, 山田 祥寛 (著), 翔泳社
参考書 ／References	必要となる場合は、授業内で紹介します。
受講者へのメッセージ ／Message to participants	皆さんは将来、上流工程に関わるSEになるかもしれません。その際、プログラミングを知らなければ優秀なSEにはなれないでしょう。また、プログラミングを学習することで、物事を論理的に分析する力や、粘り強く課題を解決する能力も身に着けられます。これらは、将来社会人となる、皆さんにとって、単なるスキルではなく、これからの時代を生きるための重要な教養として大きな価値を持つものです。ぜひ頑張ってこの学びを楽しんでください。

実務経験のある教員に関する情報
／ Information about teachers
with work experience

--

授業計画詳細／Course schedule

回	内容	備考
1	イントロダクション： ガイダンスとPythonのルール	
2	Pythonの基本： 変数とデータ型	
3	演算子： 算術演算子，代入演算子，比較演算子，論理演算子，ビット演算子，演算子の優先順位と結合則	
4	制御構文： 条件分岐，繰り返し処理，ループの制御，例外処理	
5	これまでの総合課題①	
6	開発環境の準備 標準ライブラリ 基本： ライブラリの分類，日付／時刻のデータ型と計算	
7	標準ライブラリ コレクション： シーケンス型（配列），辞書（dict）型，セット（集合）型 ファイルによる入力、文字列操作と正規表現	
8	標準ライブラリ その他： シーケンス型と辞書型を用いた複雑なデータの取り扱い データの視覚化、ファイルへの出力	
9	これまでの総合課題②	
10	ユーザー定義関数： ユーザー定義関数の基本，変数の有効範囲（スコープ），引数のさまざまな記法，関数呼び出しと戻り値	
11	ユーザー定義関数 応用： デコレーター，ジェネレーター，関数のモジュール化，非同期処理，ドキュメンテーション	
12	オブジェクト指向構文： クラスの定義，カプセル化，継承，ポリモーフィズム	
13	オブジェクト指向構文 応用： 例外処理，特殊メソッド，データクラス，イテレーター，メタクラス	
14	これまでの総合課題③	
15	総合復習	

開講科目名／Course	基礎プログラミングA(PM8)／Introduction to Programming A
時間割コード／Course Code	P30A2031C
時間割所属／Course Offered by	湘南キャンパス／
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 春学期／Spring Semester
開講区分／semester offered	春学期／Spring Semester
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2,3,4
主担当教員／Main Instructor	櫻井 淳
担当教員名／Instructor (担当教員所属名／Affiliation)	櫻井 淳 (情報システム学科／)
サブタイトル ／Subtitle	
研究室 ／Laboratory	研究室 (3407)
連絡先 ／Contact address	sakuraij@bunkyo.ac.jp
授業概要 ／Course Overview	プログラミングがなければ情報社会は成り立ちません。この授業ではプログラミング言語 "Python" を使ってプログラミングの基本的な考え方や作り方を学びます。Pythonは、近年、機械学習やディープラーニング（深層学習）の分野で注目を浴びているだけでなく、国家試験の基本情報技術者試験でも採用されるなど教育分野での活用も期待されています。また、オブジェクト指向言語でもあり、高学年のプロジェクト演習でのソフトウェア開発にも活用できる高い汎用性もあります。プログラミング初心者を対象としますが、経験ある学生は基本を確認する機会として履修をするようにしてください。
到達目標 ／Goals	Pythonの基礎的なプログラミンができるようになること。
授業外での学修（予習・復習） ／Study outside of class (preparation and review)	教科書を用いた講義の予習をすることが望ましいが、各回の講義内容に関し、次の講義までに、ノートや教科書を用いた復習を優先すること。
授業外学修時間 ／Study time outside of class	各授業回の事前事後で合わせて4時間以上の授業外学修を要する。
評価方法 ／Evaluation method	毎回の授業で出すプログラミング課題の提出状況と、期末試験により評価する。
評価基準 ／Evaluation criteria	毎回の授業で出すプログラミング課題と期末試験の点数を合算し、60%以上で合格とする。
フィードバック ／Feedback	提出された課題の模範解答を適宜公開し、学修内容の深化を促す。
授業で使用するテキスト ／Textbooks used in the class	独習Python, 山田 祥寛 (著), 翔泳社
参考書 ／References	必要となる場合は、授業内で紹介します。
受講者へのメッセージ ／Message to participants	皆さんは将来、上流工程に関わるSEになるかもしれません。その際、プログラミングを知らなければ優秀なSEにはなれないでしょう。また、プログラミングを学習することで、物事を論理的に分析する力や、粘り強く課題を解決する能力も身に着けられます。これらは、将来社会人となる、皆さんにとって、単なるスキルではなく、これからの時代を生きるための重要な教養として大きな価値を持つものです。ぜひ頑張ってこの学びを楽しんでください。

実務経験のある教員に関する情報
／ Information about teachers
with work experience

--

授業計画詳細／Course schedule

回	内容	備考
1	イントロダクション： ガイダンスとPythonのルール	
2	Pythonの基本： 変数とデータ型	
3	演算子： 算術演算子，代入演算子，比較演算子，論理演算子，ビット演算子，演算子の優先順位と結合則	
4	制御構文： 条件分岐，繰り返し処理，ループの制御，例外処理	
5	これまでの総合課題①	
6	開発環境の準備 標準ライブラリ 基本： ライブラリの分類，日付／時刻のデータ型と計算	
7	標準ライブラリ コレクション： シーケンス型（配列），辞書（dict）型，セット（集合）型 ファイルによる入力、文字列操作と正規表現	
8	標準ライブラリ その他： シーケンス型と辞書型を用いた複雑なデータの取り扱い データの視覚化、ファイルへの出力	
9	これまでの総合課題②	
10	ユーザー定義関数： ユーザー定義関数の基本，変数の有効範囲（スコープ），引数のさまざまな記法，関数呼び出しと戻り値	
11	ユーザー定義関数 応用： デコレーター，ジェネレーター，関数のモジュール化，非同期処理，ドキュメンテーション	
12	オブジェクト指向構文： クラスの定義，カプセル化，継承，ポリモーフィズム	
13	オブジェクト指向構文 応用： 例外処理，特殊メソッド，データクラス，イテレーター，メタクラス	
14	これまでの総合課題③	
15	総合復習	

開講科目名／Course	基礎プログラミングA(再履修)／Introduction to Programming A
時間割コード／Course Code	P30A2031D
時間割所属／Course Offered by	湘南キャンパス／
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 秋学期／Autumn Semester
開講区分／semester offered	秋学期／Autumn Semester
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2,3,4
主担当教員／Main Instructor	武藤 剛
担当教員名／Instructor (担当教員所属名／Affiliation)	武藤 剛 (情報システム学科／)
サブタイトル ／Subtitle	
研究室 ／Laboratory	3309
連絡先 ／Contact address	muto@bunkyo.ac.jp
授業概要 ／Course Overview	プログラミングがなければ情報社会は成り立ちません。この授業ではプログラミング言語 "Python" を使ってプログラミングの基本的な考え方や作り方を学びます。Pythonは、近年、機械学習やディープラーニング（深層学習）の分野で注目を浴びているだけでなく、国家試験の基本情報技術者試験でも採用されるなど教育分野での活用も期待されています。また、オブジェクト指向言語でもあり、高学年のプロジェクト演習でのソフトウェア開発にも活用できる高い汎用性もあります。プログラミング初心者を対象としますが、経験ある学生は基本を確認する機会として履修をするようにしてください。
到達目標 ／Goals	Pythonの基礎的なプログラミンができるようになること。
授業外での学修（予習・復習） ／Study outside of class (preparation and review)	教科書を用いた講義の予習をすることが望ましいが、各回の講義内容に関し、次の講義までに、ノートや教科書を用いた復習を優先すること。
授業外学修時間 ／Study time outside of class	各授業回の事前事後で合わせて4時間以上の授業外学修を要する。
評価方法 ／Evaluation method	毎回の授業で出すプログラミング課題の提出状況と、期末試験により評価する。
評価基準 ／Evaluation criteria	毎回の授業で出すプログラミング課題と期末試験の点数を合算し、60%以上で合格とする。
フィードバック ／Feedback	提出された課題の模範解答を適宜公開し、学修内容の深化を促す。
授業で使用するテキスト ／Textbooks used in the class	独習Python, 山田 祥寛 (著), 翔泳社
参考書 ／References	必要となる場合は、授業内で紹介します。
受講者へのメッセージ ／Message to participants	皆さんは将来、上流工程に関わるSEになるかもしれません。その際、プログラミングを知らなければ優秀なSEにはなれないでしょう。また、プログラミングを学習することで、物事を論理的に分析する力や、粘り強く課題を解決する能力も身に着けられます。これらは、将来社会人となる、皆さんにとって、単なるスキルではなく、これからの時代を生きるための重要な教養として大きな価値を持つものです。ぜひ頑張ってこの学びを楽しんでください。

実務経験のある教員に関する情報
／ Information about teachers
with work experience

--

授業計画詳細／Course schedule

回	内容	備考
1	イントロダクション： ガイダンスとPythonのルール	
2	Pythonの基本： 変数とデータ型	
3	演算子： 算術演算子，代入演算子，比較演算子，論理演算子，ビット演算子，演算子の優先順位と結合則	
4	制御構文： 条件分岐，繰り返し処理，ループの制御，例外処理	
5	これまでの総合課題①	
6	開発環境の準備 標準ライブラリ 基本： ライブラリの分類，日付／時刻のデータ型と計算	
7	標準ライブラリ コレクション： シーケンス型（配列），辞書（dict）型，セット（集合）型 ファイルによる入力、文字列操作と正規表現	
8	標準ライブラリ その他： シーケンス型と辞書型を用いた複雑なデータの取り扱い データの視覚化、ファイルへの出力	
9	これまでの総合課題②	
10	ユーザー定義関数： ユーザー定義関数の基本，変数の有効範囲（スコープ），引数のさまざまな記法，関数呼び出しと戻り値	
11	ユーザー定義関数 応用： デコレーター，ジェネレーター，関数のモジュール化，非同期処理，ドキュメンテーション	
12	オブジェクト指向構文： クラスの定義，カプセル化，継承，ポリモーフィズム	
13	オブジェクト指向構文 応用： 例外処理，特殊メソッド，データクラス，イテレーター，メタクラス	
14	これまでの総合課題③	
15	総合復習	

開講科目名／Course	基礎プログラミングB(PM6)／Introduction to Programming B
時間割コード／Course Code	P30A2041A
時間割所属／Course Offered by	湘南キャンパス／
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 春学期／Spring Semester
開講区分／semester offered	春学期／Spring Semester
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2,3,4
主担当教員／Main Instructor	阿部 秀尚
担当教員名／Instructor (担当教員所属名／Affiliation)	阿部 秀尚 (情報システム学科／)
サブタイトル ／Subtitle	
研究室 ／Laboratory	3308
連絡先 ／Contact address	manabaに掲載する．
授業概要 ／Course Overview	プログラミングがなければ情報社会は成り立ちません．この授業ではプログラミング言語 "Python" を使ってプログラミングの基本的な考え方や作り方を学びます．Pythonは，近年，機械学習やディープラーニング（深層学習）の分野で注目を浴びているだけでなく，国家試験の基本情報技術者試験でも採用されるなど教育分野での活用も期待されています．また，オブジェクト指向言語でもあり，高学年のプロジェクト演習でのソフトウェア開発にも活用できる高い汎用性もあります．プログラミング初心者を対象としますが，経験ある学生は基本を確認する機会として履修をするようにしてください．
到達目標 ／Goals	Pythonの基礎的なプログラミンができるようになること．
授業外での学修（予習・復習） ／Study outside of class (preparation and review)	教科書を用いた講義の予習をすることが望ましいが，各回の講義内容に関し，次の講義までに，ノートや教科書を用いた復習を優先すること．
授業外学修時間 ／Study time outside of class	各授業回の事前事後で合わせて4時間以上の授業外学修を要する．
評価方法 ／Evaluation method	毎回の授業で出すプログラミング課題の提出状況と，期末試験により評価する．
評価基準 ／Evaluation criteria	毎回の授業で出すプログラミング課題と期末試験の点数を合算し，60%以上で合格とする．
フィードバック ／Feedback	提出された課題の模範解答を適宜公開し，学修内容の深化を促す．
授業で使用するテキスト ／Textbooks used in the class	独習Python，山田 祥寛（著），翔泳社
参考書 ／References	必要となる場合は，授業内で紹介します．
受講者へのメッセージ ／Message to participants	皆さんは将来、上流工程に関わるSEになるかもしれません．その際，プログラミングを知らなければ優秀なSEにはなれないでしょう．また，プログラミングを学習することで，物事を論理的に分析する力や，粘り強く課題を解決する能力も身に着けられます．これらは，将来社会人となる，皆さんにとって，単なるスキルではなく，これからの時代を生きるための重要な教養として大きな価値を持つものです．ぜひ頑張ってこの学びを楽しんでください．

実務経験のある教員に関する情報
／ Information about teachers
with work experience

--

授業計画詳細／Course schedule

回	内容	備考
1	イントロダクション： ガイダンスとPythonのルール	
2	Pythonの基本： 変数とデータ型	
3	演算子： 算術演算子，代入演算子，比較演算子，論理演算子，ビット演算子，演算子の優先順位と結合則	
4	制御構文： 条件分岐，繰り返し処理，ループの制御，例外処理	
5	これまでの総合課題①	
6	開発環境の準備 標準ライブラリ 基本： ライブラリの分類，日付／時刻のデータ型と計算	
7	標準ライブラリ コレクション： シーケンス型（配列），辞書（dict）型，セット（集合）型 ファイルによる入力、文字列操作と正規表現	
8	標準ライブラリ その他： シーケンス型と辞書型を用いた複雑なデータの取り扱い データの視覚化、ファイルへの出力	
9	これまでの総合課題②	
10	ユーザー定義関数： ユーザー定義関数の基本，変数の有効範囲（スコープ），引数のさまざまな記法，関数呼び出しと戻り値	
11	ユーザー定義関数 応用： デコレーター，ジェネレーター，関数のモジュール化，非同期処理，ドキュメンテーション	
12	オブジェクト指向構文： クラスの定義，カプセル化，継承，ポリモーフィズム	
13	オブジェクト指向構文 応用： 例外処理，特殊メソッド，データクラス，イテレーター，メタクラス	
14	これまでの総合課題③	
15	総合復習	

開講科目名／Course	基礎プログラミングB(PM7)／Introduction to Programming B
時間割コード／Course Code	P30A2041B
時間割所属／Course Offered by	湘南キャンパス／
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 春学期／Spring Semester
開講区分／semester offered	春学期／Spring Semester
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2,3,4
主担当教員／Main Instructor	武藤 剛
担当教員名／Instructor (担当教員所属名／Affiliation)	武藤 剛 (情報システム学科／)
サブタイトル ／Subtitle	
研究室 ／Laboratory	3309
連絡先 ／Contact address	muto@bunkyo.ac.jp
授業概要 ／Course Overview	プログラミングがなければ情報社会は成り立ちません。この授業ではプログラミング言語 "Python" を使ってプログラミングの基本的な考え方や作り方を学びます。Pythonは、近年、機械学習やディープラーニング（深層学習）の分野で注目を浴びているだけでなく、国家試験の基本情報技術者試験でも採用されるなど教育分野での活用も期待されています。また、オブジェクト指向言語でもあり、高学年のプロジェクト演習でのソフトウェア開発にも活用できる高い汎用性もあります。プログラミング初心者を対象としますが、経験ある学生は基本を確認する機会として履修をするようにしてください。
到達目標 ／Goals	Pythonの基礎的なプログラミンができるようになること。
授業外での学修（予習・復習） ／Study outside of class (preparation and review)	教科書を用いた講義の予習をすることが望ましいが、各回の講義内容に関し、次の講義までに、ノートや教科書を用いた復習を優先すること。
授業外学修時間 ／Study time outside of class	各授業回の事前事後で合わせて4時間以上の授業外学修を要する。
評価方法 ／Evaluation method	毎回の授業で出すプログラミング課題の提出状況と、期末試験により評価する。
評価基準 ／Evaluation criteria	毎回の授業で出すプログラミング課題と期末試験の点数を合算し、60%以上で合格とする。
フィードバック ／Feedback	提出された課題の模範解答を適宜公開し、学修内容の深化を促す。
授業で使用するテキスト ／Textbooks used in the class	独習Python, 山田 祥寛 (著), 翔泳社
参考書 ／References	必要となる場合は、授業内で紹介します。
受講者へのメッセージ ／Message to participants	皆さんは将来、上流工程に関わるSEになるかもしれません。その際、プログラミングを知らなければ優秀なSEにはなれないでしょう。また、プログラミングを学習することで、物事を論理的に分析する力や、粘り強く課題を解決する能力も身に着けられます。これらは、将来社会人となる、皆さんにとって、単なるスキルではなく、これからの時代を生きるための重要な教養として大きな価値を持つものです。ぜひ頑張ってこの学びを楽しんでください。

実務経験のある教員に関する情報
／ Information about teachers
with work experience

--

授業計画詳細／Course schedule

回	内容	備考
1	イントロダクション： ガイダンスとPythonのルール	
2	Pythonの基本： 変数とデータ型	
3	演算子： 算術演算子，代入演算子，比較演算子，論理演算子，ビット演算子，演算子の優先順位と結合則	
4	制御構文： 条件分岐，繰り返し処理，ループの制御，例外処理	
5	これまでの総合課題①	
6	開発環境の準備 標準ライブラリ 基本： ライブラリの分類，日付／時刻のデータ型と計算	
7	標準ライブラリ コレクション： シーケンス型（配列），辞書（dict）型，セット（集合）型 ファイルによる入力、文字列操作と正規表現	
8	標準ライブラリ その他： シーケンス型と辞書型を用いた複雑なデータの取り扱い データの視覚化、ファイルへの出力	
9	これまでの総合課題②	
10	ユーザー定義関数： ユーザー定義関数の基本，変数の有効範囲（スコープ），引数のさまざまな記法，関数呼び出しと戻り値	
11	ユーザー定義関数 応用： デコレーター，ジェネレーター，関数のモジュール化，非同期処理，ドキュメンテーション	
12	オブジェクト指向構文： クラスの定義，カプセル化，継承，ポリモーフィズム	
13	オブジェクト指向構文 応用： 例外処理，特殊メソッド，データクラス，イテレーター，メタクラス	
14	これまでの総合課題③	
15	総合復習	

開講科目名／Course	基礎プログラミングB(PM8)／Introduction to Programming B
時間割コード／Course Code	P30A2041C
時間割所属／Course Offered by	湘南キャンパス／
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 春学期／Spring Semester
開講区分／semester offered	春学期／Spring Semester
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2,3,4
主担当教員／Main Instructor	櫻井 淳
担当教員名／Instructor (担当教員所属名／Affiliation)	櫻井 淳 (情報システム学科／)
サブタイトル ／Subtitle	
研究室 ／Laboratory	研究室 (3407)
連絡先 ／Contact address	sakuraij@bunkyo.ac.jp
授業概要 ／Course Overview	プログラミングがなければ情報社会は成り立ちません。この授業ではプログラミング言語 "Python" を使ってプログラミングの基本的な考え方や作り方を学びます。Pythonは、近年、機械学習やディープラーニング（深層学習）の分野で注目を浴びているだけでなく、国家試験の基本情報技術者試験でも採用されるなど教育分野での活用も期待されています。また、オブジェクト指向言語でもあり、高学年のプロジェクト演習でのソフトウェア開発にも活用できる高い汎用性もあります。プログラミング初心者を対象としますが、経験ある学生は基本を確認する機会として履修をするようにしてください。
到達目標 ／Goals	Pythonの基礎的なプログラミンができるようになること。
授業外での学修（予習・復習） ／Study outside of class (preparation and review)	教科書を用いた講義の予習をすることが望ましいが、各回の講義内容に関し、次の講義までに、ノートや教科書を用いた復習を優先すること。
授業外学修時間 ／Study time outside of class	各授業回の事前事後で合わせて4時間以上の授業外学修を要する。
評価方法 ／Evaluation method	毎回の授業で出すプログラミング課題の提出状況と、期末試験により評価する。
評価基準 ／Evaluation criteria	毎回の授業で出すプログラミング課題と期末試験の点数を合算し、60%以上で合格とする。
フィードバック ／Feedback	提出された課題の模範解答を適宜公開し、学修内容の深化を促す。
授業で使用するテキスト ／Textbooks used in the class	独習Python, 山田 祥寛 (著), 翔泳社
参考書 ／References	必要となる場合は、授業内で紹介します。
受講者へのメッセージ ／Message to participants	皆さんは将来、上流工程に関わるSEになるかもしれません。その際、プログラミングを知らなければ優秀なSEにはなれないでしょう。また、プログラミングを学習することで、物事を論理的に分析する力や、粘り強く課題を解決する能力も身に着けられます。これらは、将来社会人となる、皆さんにとって、単なるスキルではなく、これからの時代を生きるための重要な教養として大きな価値を持つものです。ぜひ頑張ってこの学びを楽しんでください。

実務経験のある教員に関する情報
／ Information about teachers
with work experience

--

授業計画詳細／Course schedule

回	内容	備考
1	イントロダクション： ガイダンスとPythonのルール	
2	Pythonの基本： 変数とデータ型	
3	演算子： 算術演算子，代入演算子，比較演算子，論理演算子，ビット演算子，演算子の優先順位と結合則	
4	制御構文： 条件分岐，繰り返し処理，ループの制御，例外処理	
5	これまでの総合課題①	
6	開発環境の準備 標準ライブラリ 基本： ライブラリの分類，日付／時刻のデータ型と計算	
7	標準ライブラリ コレクション： シーケンス型（配列），辞書（dict）型，セット（集合）型 ファイルによる入力、文字列操作と正規表現	
8	標準ライブラリ その他： シーケンス型と辞書型を用いた複雑なデータの取り扱い データの視覚化、ファイルへの出力	
9	これまでの総合課題②	
10	ユーザー定義関数： ユーザー定義関数の基本，変数の有効範囲（スコープ），引数のさまざまな記法，関数呼び出しと戻り値	
11	ユーザー定義関数 応用： デコレーター，ジェネレーター，関数のモジュール化，非同期処理，ドキュメンテーション	
12	オブジェクト指向構文： クラスの定義，カプセル化，継承，ポリモーフィズム	
13	オブジェクト指向構文 応用： 例外処理，特殊メソッド，データクラス，イテレーター，メタクラス	
14	これまでの総合課題③	
15	総合復習	

開講科目名／Course	基礎プログラミングB(再履修)／Introduction to Programming B
時間割コード／Course Code	P30A2041D
時間割所属／Course Offered by	湘南キャンパス／
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 秋学期／Autumn Semester
開講区分／semester offered	秋学期／Autumn Semester
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2,3,4
主担当教員／Main Instructor	武藤 剛
担当教員名／Instructor (担当教員所属名／Affiliation)	武藤 剛 (情報システム学科／)
サブタイトル ／Subtitle	
研究室 ／Laboratory	3309
連絡先 ／Contact address	muto@bunkyo.ac.jp
授業概要 ／Course Overview	プログラミングがなければ情報社会は成り立ちません。この授業ではプログラミング言語 "Python" を使ってプログラミングの基本的な考え方や作り方を学びます。Pythonは、近年、機械学習やディープラーニング（深層学習）の分野で注目を浴びているだけでなく、国家試験の基本情報技術者試験でも採用されるなど教育分野での活用も期待されています。また、オブジェクト指向言語でもあり、高学年のプロジェクト演習でのソフトウェア開発にも活用できる高い汎用性もあります。プログラミング初心者を対象としますが、経験ある学生は基本を確認する機会として履修をするようにしてください。
到達目標 ／Goals	Pythonの基礎的なプログラミンができるようになること。
授業外での学修（予習・復習） ／Study outside of class (preparation and review)	教科書を用いた講義の予習をすることが望ましいが、各回の講義内容に関し、次の講義までに、ノートや教科書を用いた復習を優先すること。
授業外学修時間 ／Study time outside of class	各授業回の事前事後で合わせて4時間以上の授業外学修を要する。
評価方法 ／Evaluation method	毎回の授業で出すプログラミング課題の提出状況と、期末試験により評価する。
評価基準 ／Evaluation criteria	毎回の授業で出すプログラミング課題と期末試験の点数を合算し、60%以上で合格とする。
フィードバック ／Feedback	提出された課題の模範解答を適宜公開し、学修内容の深化を促す。
授業で使用するテキスト ／Textbooks used in the class	独習Python, 山田 祥寛 (著), 翔泳社
参考書 ／References	必要となる場合は、授業内で紹介します。
受講者へのメッセージ ／Message to participants	皆さんは将来、上流工程に関わるSEになるかもしれません。その際、プログラミングを知らなければ優秀なSEにはなれないでしょう。また、プログラミングを学習することで、物事を論理的に分析する力や、粘り強く課題を解決する能力も身に着けられます。これらは、将来社会人となる、皆さんにとって、単なるスキルではなく、これからの時代を生きるための重要な教養として大きな価値を持つものです。ぜひ頑張ってこの学びを楽しんでください。

実務経験のある教員に関する情報
／ Information about teachers
with work experience

--

授業計画詳細／Course schedule

回	内容	備考
1	イントロダクション： ガイダンスとPythonのルール	
2	Pythonの基本： 変数とデータ型	
3	演算子： 算術演算子，代入演算子，比較演算子，論理演算子，ビット演算子，演算子の優先順位と結合則	
4	制御構文： 条件分岐，繰り返し処理，ループの制御，例外処理	
5	これまでの総合課題①	
6	開発環境の準備 標準ライブラリ 基本： ライブラリの分類，日付／時刻のデータ型と計算	
7	標準ライブラリ コレクション： シーケンス型（配列），辞書（dict）型，セット（集合）型 ファイルによる入力、文字列操作と正規表現	
8	標準ライブラリ その他： シーケンス型と辞書型を用いた複雑なデータの取り扱い データの視覚化、ファイルへの出力	
9	これまでの総合課題②	
10	ユーザー定義関数： ユーザー定義関数の基本，変数の有効範囲（スコープ），引数のさまざまな記法，関数呼び出しと戻り値	
11	ユーザー定義関数 応用： デコレーター，ジェネレーター，関数のモジュール化，非同期処理，ドキュメンテーション	
12	オブジェクト指向構文： クラスの定義，カプセル化，継承，ポリモーフィズム	
13	オブジェクト指向構文 応用： 例外処理，特殊メソッド，データクラス，イテレーター，メタクラス	
14	これまでの総合課題③	
15	総合復習	

開講科目名／Course	プログラミング入門(PB2)／Introduction to Programming
時間割コード／Course Code	P40A2081A
時間割所属／Course Offered by	湘南キャンパス／
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 秋学期／Autumn Semester
開講区分／semester offered	秋学期／Autumn Semester
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2,3,4
主担当教員／Main Instructor	佐藤 孝司
担当教員名／Instructor (担当教員所属名／Affiliation)	佐藤 孝司 (データサイエンス学科／)
サブタイトル ／Subtitle	Pythonプログラミングの基礎の基礎から始めて、簡単なデータ分析やグラフを作成できるまでの知識と技量を身につける。
研究室 ／Laboratory	3413研究室
連絡先 ／Contact address	satotakashi@bunkyo.ac.jp
授業概要 ／Course Overview	本授業では、基礎的なプログラミング技術を習得します。プログラミング言語はPythonを使用します。Pythonは、現在最も人気のあるプログラミング言語の一つであり、データサイエンス分野から、ウェブ開発、AI開発など、さまざまな分野で活用できるので、初心者向けの学習からプロフェッショナルな開発まで対応可能な言語です。Pythonの実行環境には、Jupyter Notebookを使用します。Jupyter Notebookはデータサイエンス分野の実行環境に適しているツールです。授業では、このツールの使い方も習得します。 Pythonの基本を理解し、小規模なプログラムを自力で設計・実装できるようになることで、IT分野への興味やさらなる学習への意欲を引き出すことを目的とします。
到達目標 ／Goals	(1)Python言語に対する基礎的な知識を身に付ける (2)プログラミングに慣れ、Python言語の基本的な扱いができるようになる (3)プログラミングで書かれている構文を読解できるようになる
授業外での学修 (予習・復習) ／Study outside of class (preparation and review)	プログラミングの学習は授業時間だけでは不十分ですので、授業中に作成したプログラム等を各自で復習して理解を深めて下さい。
授業外学修時間 ／Study time outside of class	1単位あたり45時間の総学修時間を要することをふまえて、進捗状況等に応じて個別に指示します。
評価方法 ／Evaluation method	課題(毎週)(30%)、授業期間内のテスト(40%)、授業参加の姿勢(30%)で評価する
評価基準 ／Evaluation criteria	AA：基礎的なプログラミングに関して十分な知識を有しており、不自由なく使用できる。 A：基礎的なプログラミングに関して知識を有しており、ある程度使用できる。 B：基礎的なプログラミングに関して主要な知識を有しており、基本的な事例についてはある程度使用できる。 C：基礎的なプログラミングに関して最低限の知識を得ており、ごく単純な使用ができる。 D：基礎的なプログラミングに関して理解、そして使用の技量がいずれも不十分である。
フィードバック ／Feedback	毎回課題を出し、次回にその解説を行う。
授業で使用するテキスト ／Textbooks used in the class	授業資料をmanabaで毎回配布するため、教科書を指定しない
参考書 ／References	必要に応じて、授業中に指示する。
受講者へのメッセージ ／Message to participants	プログラミングができるようになるとPCによる学習がより楽しくなり、自信もつきます。Pythonは、広く普及しているので、将来的にも業務等で利用する可能性も高い言語です。Pythonでプログラミングの楽しさと実用性を体験し、未来に向けた技術の基盤を築きましょう！
実務経験のある教員に関する情報 ／Information about teachers with work experience	この授業を担当する教員は、大手IT企業において、システムおよびソフトウェアの開発・保守・品質管理や開発プロセス構築・改善を専門領域とした経歴を持つ。 これらの実務経験に基づき、到達目標に記載した能力・知識を身に付けられるようにこの授業を行う。

授業計画詳細／Course schedule

回	内容	備考
1	オリエンテーション、Pythonの開発環境の準備、Juupyter Notebookの使い方など	
2	四則演算、変数、型、文字列	
3	代入演算子、比較演算子、論理演算子	
4	リスト、タプル、dict(辞書型)	
5	分岐（ if 文 ）	
6	繰り返し（ for 文、while文）	
7	文字列操作	
8	関数	
9	無名関数、スコープ、モジュール	
10	復習テスト	
11	クラス	
12	クラス変数、継承	
13	データ分析	
14	グラフ作成	
15	復習テスト	

開講科目名／Course	メディア調査研究法A(量的調査研究の技法)／Research Methods in Media Studies A
時間割コード／Course Code	P50C2271A
時間割所属／Course Offered by	湘南キャンパス／
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 春学期／Spring Semester
開講区分／semester offered	春学期／Spring Semester
単位数／Credits	2.0
学年／Year	2,3,4
主担当教員／Main Instructor	本多 祥大
担当教員名／Instructor (担当教員所属名／Affiliation)	本多 祥大 (情報学部／)
サブタイトル ／Subtitle	
研究室 ／Laboratory	情報学部講師室 (出講日のみ)
連絡先 ／Contact address	E-mail : lays23001@g.nihon-u.ac.jp
授業概要 ／Course Overview	メディア・コミュニケーションに関する諸現象を、実証的に明らかにする方法の一つとして、量的調査研究の技法を学習する。グループワークにより、実際に具体的な調査の企画・立案を行い、調査の実施、集計・分析、報告までを体験する演習である。「社会調査士資格」の取得を認定する予定科目の一つで、基礎的な量的調査研究の実践的な方法を理解することが目標である。
到達目標 ／Goals	授業概要にもありますが、「社会調査士資格」の取得を認定する予定科目の一つで、基礎的な量的調査研究の実践的な方法を理解することが目標です。具体的には、いわゆるアンケートの作成を社会調査理論をふまえて行える技術を身に付けること、その技術をさまざまなテーマに応用して実施できるようになることが目標です。
授業外での学修 (予習・復習) ／Study outside of class (preparation and review)	社会調査の企画・立案と実施が授業内容ですので、調査の企画・立案のための事前学習やプランニングが主な予習にあたります。調査の実施は課外活動になります。調査結果の集計や整理、発表などが復習にあたります。
授業外学修時間 ／Study time outside of class	授業回の前半では授業内容の予習と復習に計4時間程度以上の授業外学修を要する。中盤以降は、調査票設計のための準備や調査結果のデータ分析、報告書作成などのために4時間以上の授業外学修を要する。
評価方法 ／Evaluation method	成績は、調査票作成等の共同作業貢献(約50%)内容の理解と報告書 (個人レポート(約50%)) により評価する。
評価基準 ／Evaluation criteria	AA) グループワークに積極的に参加し、調査の企画・立案、実施、分析について良く理解し、報告書には自分なりの問題意識が伺え考察も優れている。A) AAに次ぐ。B) グループワークに参加し、調査の企画・立案、実施、分析についてやや理解に欠け、報告書の考察がやや不足。C) グループワークに参加しているが、調査の企画・立案、実施、分析について理解に欠け、報告書に難点がある。D) グループワーク、調査の企画・立案、実施、分析を理解しておらず、報告書が不十分。
フィードバック ／Feedback	授業回の前半では調査に関するグループワークの報告ファイルに対してコメントを行う。中盤以降は調査票設計やデータ分析、報告書作成について、コメントを適宜行う。
授業で使用するテキスト ／Textbooks used in the class	授業中に指示する。
参考書 ／References	授業中に指示する。
受講者へのメッセージ ／Message to participants	毎回出席しないと、授業についていけなくなります。
実務経験のある教員に関する情報 ／Information about teachers with work experience	

授業計画詳細／Course schedule

回	内容	備考
1	第1回 授業ガイダンス：（１）調査作業スケジュールの提示、 （２）調査目的と仮説案のブレインストーミング、（３）調査目的と仮説案の考案の課題提出	
2	第2回 グループと調査テーマの決定：（１）調査目的と仮説案代替案の報告と討論、（２）調査目的と仮説案の絞り込みと担当グループの形成（１グループ4名以内）	
3	第3回 調査テーマ／仮説の検討１：（１）文献調査・ウェブ調査の情報を加えて深化・拡張した仮説構成の報告・討論	
4	第4回 調査テーマ／仮説の検討２：（１）インタビュー調査の情報を加えて深化・拡張した仮説構成の報告・討論	
5	第5回 調査テーマ／仮説の検討３：（１）概念の操作化による作業仮説案の報告と討論、（２）仮説・作業仮説から展開した調査設問項目の報告・討論、（３）調査企画（調査対象者、調査の実施方法、調査規模、実施・回収の予定）の報告・討論	
6	第6回 調査票設計１：（１）作業仮説に基づく核心的調査項目と周辺の調査項目の報告・討論	
7	第7回 調査票設計２：（１）調査票設計の方針（ワーディング・回答選択肢・調査票レイアウトの留意点）に基づく調査票の報告・討論	
8	第8回 調査票設計３：（１）プリテストの実施と調査票改善の報告・討論	
9	第9回 調査実施と回答回収１：（１）サンプリングの結果の報告・討論、（２）実施に際しての留意点の周知	
10	第10回 調査実施と回答回収２：（１）調査の実施と回収状況の報告、（２）エディティング、データ入力、データクリーニングの方法提示	
11	第11回 調査票の点検とデータ入力：（１）エディティングの実行と処理場の問題点の討論、（２）データ入力とデータクリーニングの結果報告と討論	
12	第12回 調査データの集計１：（１）単純集計表の作成・報告と討論（SPSSによる集計・分析）	
13	第13回 調査データの集計２：（１）仮説検証の集計の実施報告と討論（２）その他のクロス集計、グループの平均等の行動な集計の報告と討論	
14	第14回 調査データの集計３：（１）報告会向けのグラフ利用PPT作成法の提示、（２）各自の個別報告作成要件の提示	
15	第15回 報告会：（１）グループ別報告と質疑応答	

情報学部履修について

1. 授業科目区分

情報学部の授業区分は、全学共通科目、共通教育科目、外国語科目、専門教育科目に区分され、それぞれの分野で修得しなければならない単位数が学則や規程によって定められ、それに従って単位を修得することにより、卒業の要件を満たすことになります。

2. 卒業に必要な単位数

学科ごとに決められた履修方法により 124 単位以上を修得しなければなりません。同一名称科目および単位修得科目を重複して履修することはできません。

情報システム学科

全学共通科目	共通教育科目	外国語科目		専門教育科目			合計
必修	選択	必修	選択	学部共通	必修	選択	124
2	12	4	2	6	32	66	

データサイエンス学科

全学共通科目	共通教育科目	外国語科目		専門教育科目			合計
必修	選択	必修	選択	学部共通	必修	選択	124
2	12	4	2	6	48	50	

メディア表現学科

全学共通科目	共通教育科目	外国語科目		専門教育科目			合計
必修	選択	必修	選択	学部共通	必修	選択	124
2	12	4	2	6	30	68	

3. 全学共通科目

文教大学を深く知り、本学学生としての誇りを持つこと、また、本学学生として共通に必要な知性を身につけることを目的とする科目です。

全学部の学生を対象とした共通のカリキュラムであり、2単位の必修科目です。

区 分		科 目	単位	開講semester	卒業要件単位
				1	
必修	全学共通科目	文教大学への招待	2	○	2単位

4. 共通教育科目

文教大学では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、幅広い教養の育成と専門領域の基礎となる共通教育科目を設置しています。

各学部の専門科目とともに学ぶ共通教育科目は、幅広い知識と教養を身につけることを目的とし全学生を対象とした共通のカリキュラムです。

共通教育科目は以下の科目から成り立っており、総計では12単位の修得が必要となります。

- ・人文の分野

哲学、文学、心理学など、人間の精神や文化を主な研究対象とする学問です。

- ・社会の分野

経済学、社会学、経営学など、人間集団や社会の在り方を主な研究対象とする学問です。

- ・自然の分野

数学、化学、生物学など、人間を取り巻く自然界における諸現象を主な研究対象とする学問です。

- ・体育科目

体育科目は、①健康なライフスタイルを形成すること、②現代社会における健康とスポーツの問題に対する理解を深めることを目的として開講しています。授業科目は「スポーツ・健康実習」と「健康科学」（各1単位）です。

【共通教育科目一覧表】

区 分		科 目	単位	開講セメスター								卒業要件 単位		
				1	2	3	4	5	6	7	8			
				1 年次		2 年次		3 年次		4 年次				
選択	人文	宗教学	2		○	3 セメスター以降の開講期は 当該年度の時間割で確認して ください。								12 単位 以上
		哲学	2	○										
		倫理学	2		○									
		文学	2	○										
		音楽	2	○										
		美術	2		○									
		心理学	2	○	○									
	社会	法律学	2		○									
		日本国憲法 ※	2	○	○									
		経済学	2		○									
		社会学	2		○									
		経営学	2	○										
		個人と社会	2	○										
		生活と広告	2	○										
	消費者行動論	2	○	○										
	自然	数学	2	○										
		化学	2	○										
		生物学	2	○										
		技術と人間	2		○									
		生命科学	2		○									
現代社会のエネルギー論		2		○										
統計学概論		2	○											
スポーツ科学		2	○	○										
体育	スポーツ・健康実習 ※	1	○	○										
	健康科学 ※	1		○										

(注) 1. ※印：教職課程必修科目

2. 「スポーツ・健康実習」は屋外、屋内での活動を伴いますので、運動着、シューズ（屋内用、屋外用）を用意してください。屋内用シューズには、黄色い靴紐（売店で販売）をつけてください。
不明な点は教員控室（体育館内）に問い合わせてください。

5. 外国語科目

- ▽ 卒業には、「外国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」から各2単位ずつ、合計6単位以上修得することが必要です。
- ▽ 「外国語Ⅰ」は英語ⅠA(1単位)と英語ⅠB(1単位)、「外国語Ⅱ」は英語ⅡA(1単位)と英語ⅡB(1単位)の合計4単位を修得することが必要です。
- ▽ 「外国語Ⅲ」は情報英語Ⅰ・Ⅱ(各1単位)、フランス語Ⅰ・Ⅱ(各1単位)、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ(各1単位)、中国語Ⅰ・Ⅱ(各1単位)のうちの2科目(2単位)を修得することが必要です。
- ▽ 卒業要件(6単位)を超えて修得した科目の単位は、2単位を上限に各学科の専門教育科目の「選択科目」の単位として充当することができます。
- ▽ 帰国生として入学した学生は、「外国語」のかわりに日本語会話(2単位)、日本語読解(2単位)、日本語作文(2単位)の合計6単位を履修させることがあります。「外国語」以外の履修を希望する場合には、当該学期の履修登録期間中に教育支援課に申し出てください。
- ▽ 留学生として入学した学生は、「外国語」のかわりに日本語会話(2単位)、日本語読解(2単位)、日本語作文(2単位)の合計6単位を修得することが必要です。
- ▽ 留学生として入学した学生が卒業要件の日本語科目(6単位)に加えて「外国語」を修得した場合は、4単位を上限に各学科の専門教育科目の「選択科目」の単位として充当することができます。履修を希望する場合には、当該学期の履修登録期間中に教育支援課に申し出てください。
- ▽ 留学生として入学した学生が「外国語」として母国語を修得した場合、卒業要件単位に充当することはできません。

Ⅰ. 英語、フランス語、ドイツ語、中国語

- ※ 英語ⅠAと英語ⅠBを履修する場合は、原則として両方の科目を同一セメスターで履修登録する必要があります(ただし、再履修を除く)。
- ※ 英語ⅡAと英語ⅡBは、英語ⅠAと英語ⅠBの両科目の単位を修得後、履修可能です。
- ※ 英語ⅡAと英語ⅡBを履修する場合は、原則として両方の科目を同一セメスターで履修登録する必要があります(ただし、再履修を除く)。
- ※ 情報英語Ⅰ、フランス語Ⅰ、ドイツ語Ⅰ、中国語Ⅰは、英語ⅡAと英語ⅡBの両科目の単位を修得後、履修可能です。
- ※ 情報英語、フランス語、ドイツ語、中国語には順序性があり、Ⅰ、Ⅱの順に履修して下さい。

区分		科目名	単位	開講セメスター								卒業 要件 単位
				1	2	3	4	5	6	7	8	
				1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
外国語	Ⅰ (必修)	英語ⅠA	1	○								2
		英語ⅠB	1	○								
	Ⅱ (必修)	英語ⅡA	1		○							2
		英語ⅡB	1		○							
	Ⅲ (選択)	情報英語Ⅰ	1			○						2
		フランス語Ⅰ	1			○						
		ドイツ語Ⅰ	1			○						
		中国語Ⅰ	1			○						
		情報英語Ⅱ	1				○					
		フランス語Ⅱ	1				○					
ドイツ語Ⅱ		1				○						
中国語Ⅱ		1				○						

II. 日本語（外国人留学生および帰国生）

区分		科目名	単位	開講セメスター								卒業 要件 単位
				1	2	3	4	5	6	7	8	
				1年次		2年次		3年次		4年次		
日本語	必修	日本語会話	2	○								6
		日本語読解	2	○								
		日本語作文	2		○							

6. 学部共通科目

- ▽ 卒業要件として6単位以上修得する必要があります。
- ▽ 同一セメスターでは、2科目4単位まで履修可能です。
- ▽ 卒業要件以上修得した科目は6単位まで、各学科の専門教育科目の「選択科目」に充当することができます。

区分	科目名	単位	開講セメスター								卒業 要件 単位
			1	2	3	4	5	6	7	8	
			1年次		2年次		3年次		4年次		
選択必修	デザイン論	2		○	○						6
	サブカルチャー論	2		○	○						
	メディアリテラシー	2		○	○						
	情報と社会	2		○	○						
	情報通信ネットワーク	2		○	○						
	情報処理概論	2		○	○						
	情報学序論	2		○	○						
	社会システムモデリング	2		○	○						
	現代社会と著作権	2		○	○						

7. 情報システム学科のカリキュラム

I. 情報システム学科の領域

学生のみなさんが何を学ぶか明確にし、自分の専門能力をアピールできるよう、情報システム学科では、「システム開発領域」と「情報デザイン領域」の2つの領域を用意しています。これらの領域を主専攻または副専攻とし、他学科で用意されている領域を副専攻としたりすることが出来ます（主専攻および副専攻の制度については「10. 主専攻と副専攻について」を参照）。

II. 履修条件および単位の充当

- ▽ 専門教育科目の「学部共通科目」6単位、「必修科目」32単位、「選択科目」66単位以上を修得しなければなりません。
- ▽ 他学科および他学部の専門教育科目は24単位まで（うち他学部は6単位まで）専門教育科目の「選択科目」に充当することができます。
- ▽ 履修条件のある科目は、次のとおりです。
 - A. 1セメスターの修得単位数が12単位未満（教職科目を含まない）の場合、原則として3セメスター以降に開講される科目を履修することはできません（「15. 勉学状況にともなう指導勧告」を参照）。
 - B. 「ゼミナールⅠ」は48単位以上（教職科目を含まない）の単位を修得後、履修可能です。
 - C. 「ゼミナールⅡ」は「ゼミナールⅠ」を修得後、履修可能です。
 - D. 「卒業研究Ⅰ」は90単位以上（教職科目を含まない）の単位を修得後、履修可能です。
 - E. 「卒業研究Ⅰ」は「ゼミナールⅡ」を修得後、履修可能です。
 - F. 「卒業研究Ⅱ」は「卒業研究Ⅰ」を修得後、履修可能です。
 - G. 「データベース応用」は「データベース」を修得後、履修可能です。

▽ 情報システム学科開講科目一覧

区分	科目	単位	開講セメスター								卒業要件単位
			1	2	3	4	5	6	7	8	
			1年次		2年次		3年次		4年次		
必修	基礎演習 A ★	2	○								32
	基礎演習 B ★	2	○								
	基礎プログラミング A	2	○	○							
	基礎プログラミング B	2	○	○							
	プロジェクト演習 A	2		○							
	プロジェクト演習 B	2			○						
	プロジェクト演習 C	2				○					
	ゼミナールⅠ	2					○				
	プロジェクト演習 D	4					○				
	ゼミナールⅡ	2						○			
	プロジェクト演習 E	4						○			
	卒業研究Ⅰ	2							○		
	卒業研究Ⅱ	4								○	

区分	科目	単位	開講セメスター								卒業要件単位		
			1	2	3	4	5	6	7	8			
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次				
選 択	オフィスソフトウェア入門	2	○									システム開発領域科目	6 6
	ビジュアル数学	2	○										
	微分積分	2	○										
	データベース	2	○	○									
	アルゴリズムとデータ構造	2		○									
	データと統計の見方	2		○									
	マクロプログラミング	2		○									
	線形代数学	2		○									
	オブジェクト指向プログラミング	2		○									
	人工知能概論	2		○									
	Web プログラミング	2			○								
	インターネット	2			○								
	こどもとメディア	2			○								
	情報システムとインタラクション	2			○								
	データベース応用 ★	2			○								
	情報数学序論	2			○								
	数と図形の世界	2			○								
	流通情報システム	2			○								
	会計情報システム	2			○								
	現代暗号技術	2			○								
	代数学	2			○								
	ハードウェア ★	2			○	○							
	情報可視化	2				○							
	IoT プログラミング	2				○							
	医療情報システム	2				○							
	オープンソースソフトウェア	2				○							
	オペレーティングシステム	2				○							
	行政情報システム	2				○							
	データマイニング ★	2				○							
	グラフと組合せ論	2				○							
	確率論	2				○							
	システム設計 ★	2				○							
	ソフトウェアの構成とテスト ★	2					○						
	システム分析 ★	2					○						
	プロジェクトマネジメント ★	2					○						
	クラウドサービス開発演習	2					○						
スマートフォン・アプリケーション制作	2					○							
Web マイニング	2					○							
システム開発事例研究	2					○							
オープンデータ活用演習	2					○							

区分	科目	単位	開講セメスター								卒業要件単位		
			1	2	3	4	5	6	7	8			
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次				
選 択	テキストマイニング ★	2					○				システム開発 領域科目	6 6	
	ネットワーク運用管理	2					○						
	インストラクショナルデザイン	2					○						
	解析学概論	2					○						
	幾何学	2						○					
	サイバーセキュリティ	2						○					
	機械学習応用システム	2						○					
	Web ページ制作	2	○								情報デザイン領域科目		
	デジタルクリエイション	2	○										
	作曲法	2	○										
	デジタルデッサン	2	○										
	ゲーム企画論	2	○										
	社会情報論	2	○										
	情報社会と法 ★	2	○	○									
	情報セキュリティ ★	2	○	○									
	コンテンツプランニング	2		○									
	コンピュータ・グラフィックス概論	2		○									
	色彩論	2		○									
	デザイン史	2		○									
	ゲームクリエイション	2		○									
	デジタルコミック制作	2			○								
	コンテンツの世界観構築	2			○								
	コンピュータ・グラフィックス制作	2			○								
	画像処理	2			○								
	ライトノベルの創作と編集	2			○								
	電子出版とクロスメディア	2			○								
	空間デザイン	2			○								
	ゲームエンジン	2			○								
	ヒューマンインタフェース	2			○								
	映像・アニメーション表現	2			○								
	エディトリアルデザイン	2			○								
	Web デザイン	2			○	○							
	サウンドデザイン	2			○	○							
	ゲームプログラミング	2				○							
	コンテンツマーケティング	2				○							
	キャラクターモデリング	2				○							
マンガ表現 ★	2				○								
アニメーション文化論 ★	2				○								
認知科学	2				○								
サウンドエフェクトデザイン	2				○								

区分	科目	単位	開講セメスター								卒業要件単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8		
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
選 択	フィジカルコンピューティング	2				○					情報 デザイン 領域科目	6 6
	社会と教育	2				○						
	地理情報システム	2					○					
	メディアコンテンツプログラミング	2					○					
	UX デザイン	2					○					
	アニメーション制作	2						○				
	情報システム特論 A	2					○				一 般 選 択 科 目	
	情報システム特論 B	2					○					
	情報システム特論 C	2			○							
	情報システム特論 D	2			○							
	海外研修 A ★	2		○								
	海外研修 B ★	2			○							
	キャリア研究 ★	2				○						

(注) ★印が付いている科目は、他学科の開講科目一覧表にも同一名称の科目がありますが、自学科の科目としてしか履修できません。

8. データサイエンス学科のカリキュラム

I. データサイエンス学科の領域

学生のみなさんが何を学ぶか明確にし、自分の専門能力をアピールできるよう、データサイエンス学科では、「計算社会科学」と「プロジェクトマネジメント」の2つの領域を用意しています。これらの領域を主専攻または副専攻としたり、他学科で用意されている領域を副専攻としたりすることができます（主専攻および副専攻の制度については「10. 主専攻と副専攻について」を参照）。

II. 履修条件および単位の充当

- ▽ 専門教育科目の「学部共通科目」6単位、「必修科目」48単位、「選択科目」50単位以上を修得しなければなりません。
- ▽ 他学科および他学部の専門教育科目は24単位（うち他学部は6単位）まで専門教育科目の「選択科目」に充当することができます。
- ▽ 履修条件のある科目は、次のとおりです。
 - A. 1セメスターの修得単位数が12単位未満（教職科目を含まない）の場合、原則として3セメスター以降に開講される科目を履修することはできません（「15. 勉学状況にともなう指導勧告」を参照）。
 - B. 「ゼミナールⅠ」は48単位以上（教職科目を含まない）の単位を修得後、履修可能です。
 - C. 「ゼミナールⅡ」は「ゼミナールⅠ」を修得後、履修可能です。
 - D. 「卒業研究Ⅰ」は90単位以上（教職科目を含まない）の単位を修得後、履修可能です。
 - E. 「卒業研究Ⅰ」は「ゼミナールⅡ」を修得後、履修可能です。
 - F. 「卒業研究Ⅱ」は「卒業研究Ⅰ」を修得後、履修可能です。
 - G. 授業名にⅠ、Ⅱと記されている科目は、Ⅰを修得後、Ⅱを履修することが可能です。例えば、「プロジェクトマネジメント演習Ⅱ」は「プロジェクトマネジメント演習Ⅰ」を修得後、履修可能です。

▽ データサイエンス学科開講科目一覧

区分	科目	単位	開講セメスター								卒業要件単位
			1	2	3	4	5	6	7	8	
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
必修	情報社会と法 ★	2	○	○							48
	データベース入門	2	○	○							
	情報表現演習	2	○								
	情報処理実践演習 A	2	○	○							
	基礎演習 A ★	2	○								
	基礎演習 B ★	2	○								
	人間愛と情報社会	2		○							
	プログラミング入門	2		○							
	情報処理実践演習 B	2			○	○					
	アルゴリズムとデータ構造入門	2					○	○			
	キャリア研究 ★	2				○					
	プロジェクトマネジメント演習Ⅰ	2				○					
	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ	2					○				
	文献講読	2			○						
	情報社会と人工知能	2	○	○							
	計算社会科学入門	2	○	○							
	プロジェクトマネジメント入門	2	○	○							
	計算社会科学	2			○	○					
	プロジェクトマネジメント ★	2			○	○					
	ゼミナールⅠ	2					○				

区分	科目	単位	開講セメスター								卒業要件単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8		
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
	ゼミナールⅡ	2						○				
必修	卒業研究Ⅰ	2							○		48	
	卒業研究Ⅱ	4								○		
選択	社会心理学	2	○								計 算 社 会 科 学 領 域 科 目	50
	社会調査論	2	○									
	ビジネスデータ処理演習	2	○									
	統計学入門	2		○								
	図書館情報資源概論	2		○								
	ビッグデータ解析の社会への応用	2		○								
	調査集計法 A	2			○							
	マーケティング	2			○							
	情報社会の分析と理解	2			○							
	情報資源組織論	2			○							
	情報社会のビジネスモデル	2			○							
	テキストマイニング ★	2			○							
	計算社会科学特講 A	2			○							
	データマイニング ★	2				○						
	マーケティング・リサーチ	2				○						
	調査集計法 B	2				○						
	情報資源組織演習	2			○							
	情報社会のサービス企画	2				○						
	計算社会科学特講 B	2				○						
	情報社会論	2					○					
	マーケティング・リサーチ演習	2					○					
	社会調査演習Ⅰ	2					○					
	企業と社会における問題の発見と解決	2					○					
	情報と企業のイノベーション	2					○					
	メディア・ビジネス論	2					○					
	現代社会の消費者行動	2						○				
	社会調査演習Ⅱ	2						○				
	データモデリング	2						○				
	ビジネス発想法	2						○				
	情報サービス産業の理解	2	○								プ ロ ジ エ ク ト マ ネ ジ メ ン ト 領 域 科 目	
	インターネットと情報セキュリティ	2		○								
	企業活動と情報システム	2		○								
	人工知能論	2			○							
プログラミング演習 A	2			○								
プロジェクトマネジメント特講 A	2			○								
システム開発技法	2			○								
図書館情報技術論	2				○							
情報サービス論	2			○								
ハードウェア	2			○	○							
システム設計 ★	2				○							
プログラミング演習 B	2				○							

区分	科目	単位	開講セメスター								卒業要件単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8		
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
	プロジェクトマネジメント特講 B	2				○						
選 択	知的財産法	2				○						
	情報サービス演習	2				○						
	経営の分析と計画	2				○						
	情報システムの品質と信頼性	2				○						
	データベース応用 ★	2					○					
	プログラミング演習 C	2					○					
	システム分析 ★	2					○					
	情報化要求の分析とソリューションの提案	2					○					
	情報デザイン設計	2					○					
	経済性の科学	2					○					
	情報社会における都市計画	2					○					
	ソフトウェアの構成とテスト ★	2					○					
	ビジネス法	2						○				
	不確実性とリスクのマネジメント	2						○				
	図書館概論	2	○									
	海外研修 A ★	2		○								
	生涯学習論	2			○							
	図書館サービス概論	2		○								
	図書・図書館史	2		○								
	インタラクティブメディア概論 ★	2		○								
	海外研修 B ★	2			○							
	図書館制度・経営論	2			○							
	プレゼンテーション技法	2			○							
	学外実習	2				○						
	図書館サービス特論	2				○						
	情報処理実践演習 C	2				○	○					
	児童サービス論	2						○				

(注) ★印が付いている科目は、他学科の開講科目一覧表にも同一名称の科目がありますが、自学科の科目としてしか履修できません。

9. メディア表現学科のカリキュラム

I. メディア表現学科の専攻

学生のみなさんが何を学ぶか明確にし、自分の専門能力をアピールできるよう、メディア表現学科では、「ソーシャルメディア領域」と「マスメディア領域」を用意しています。これらの領域を主専攻または副専攻としたり、他学科で用意されている領域を副専攻としたりすることができます。（主専攻および副専攻の制度については「10. 主専攻と副専攻について」を参照）。

II. 履修条件および単位の充当

- ▽ 専門教育科目は、「学部共通科目」6単位、「必修科目」30単位、「選択科目」68単位以上を修得しなければなりません。
- ▽ 他学科および他学部の専門教育科目は24単位まで（うち、他学部科目は6単位まで）専門教育科目の「選択科目」に充当することができます。
- ▽ 履修条件のある科目は、次のとおりです。
 - A. 1セメスターの修得単位数が12単位未満（教職科目を含まない）の場合、原則として3セメスター以降に開講される科目を履修することはできません（「15. 勉学状況にともなう指導勧告」を参照）。
 - B. 「ゼミナールⅠ」は48単位以上（教職科目を含まない）の単位を修得後、履修可能です。
 - C. 「ゼミナールⅡ」は「ゼミナールⅠ」を修得後、履修可能です。
 - D. 「卒業研究Ⅰ」は90単位以上（教職科目を含まない）の単位を修得後、履修可能です。
 - E. 「卒業研究Ⅰ」は「ゼミナールⅡ」を修得後、履修可能です。
 - F. 「卒業研究Ⅱ」は「卒業研究Ⅰ」を修得後、履修可能です。
 - G. 授業名にⅠ、Ⅱと記されている科目は、Ⅰを修得後、Ⅱを履修することが可能です。例えば、「写真表現Ⅱ」は「写真表現Ⅰ」を修得後、履修可能です。メディア表現学科の科目でⅠを修得していなくても、Ⅱを履修できる科目は文章演習Ⅱのみです。

▽ メディア表現学科開講科目一覧

区分	科目	単位	開講セメスター								卒業要件単位
			1	2	3	4	5	6	7	8	
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
必修	社会学概論	2	○								30
	文章演習Ⅰ	2	○								
	基礎演習 A ★	2	○								
	基礎演習 B ★	2	○								
	メディア社会学	2		○							
	ブレゼミナールA	2		○							
	マス・コミュニケーション論	2			○						
	ブレゼミナールB	2			○						
	コミュニケーション・プランニング論	2			○						
	ソーシャルメディア論	2			○	○					
	ゼミナールⅠ	2					○				
	ゼミナールⅡ	2						○			
	卒業研究Ⅰ	2							○		
	卒業研究Ⅱ	4								○	

区分	科目	単位	開講セメスター								卒業要件単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8		
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
選 択	アニメーション基礎	2	○								ソ ー シ ャ ル メ デ ィ ア 領 域	6 8
	コミュニケーションメディア論	2		○								
	マーケティング・コミュニケーション	2		○								
	広告表現Ⅰ	2		○								
	ミュージックビデオ制作A	2		○								
	アニメーション制作A（アニメ）	2		○								
	インタラクティブメディア概論 ★	2		○								
	インターネットコミュニケーション	2		○								
	コンテンツ産業論	2		○								
	広告概論	2			○							
	セールスプロモーション	2			○							
	広報・PR論	2			○							
	広告企画演習	2			○							
	広告表現Ⅱ	2			○							
	ショートムービー制作	2			○							
	アニメーション制作B（CGアニメーション）	2			○							
	CG&ゲーム制作（ゲーム企画）	2			○							
	SNS文化論	2			○							
	企画書の書き方とプレゼンテーション	2				○						
	コンテンツ発想法	2				○						
	広告産業論	2				○						
	ミュージックビデオ制作B	2				○						
	マンガ表現★	2				○						
	サウンドデザイン（DTM音楽）	2				○						
	動画配信演習	2				○						
	アート映像論	2				○						
	メディア調査研究法A（量的調査研究の技法）	2				○						
	メディア調査研究法B（多変量解析の技法）	2				○						
	Webデザイン	2				○						
	ブランド論	2					○					
	コミュニケーション企画演習	2					○					
	コピーライティング	2					○					
	UI/UXデザイン	2					○					
	インターネットビジネス論	2					○					
	情報学特殊講義A（ネットワーク分析）	2					○					
	パーソナルデータ倫理・法制	2					○					
メディア調査研究法C（総合演習）	4						○					
ソーシャルリスニング	2					○						
CM制作	2						○					
デジタルメディア論	2						○					
メディア文化論	2						○					
情報学特殊講義B（パーソナルデータ）	2						○					

区分	科目	単位	開講セメスター								卒業要件単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8		
			1年次		2年次		3年次		4年次			
選択	映像技術演習Ⅰ（ENG）	2	○								マスメディア領域	68
	記事制作Ⅰ（取材記事制作）	2		○								
	映像メディア論	2		○								
	映像技術演習Ⅱ（スタジオ）	2		○								
	ラジオ制作演習	2		○								
	出版演習	2			○							
	出版論	2			○							
	ジャーナリズム論	2			○							
	放送論	2			○							
	映像プロデュース論	2			○							
	映像表現Ⅰ	2			○							
	ドラマ演習Ⅰ（演技）	2			○							
	映像編集演習	2			○							
	映像音楽演習	2			○							
	アナウンス演習	2			○							
	記事制作Ⅱ（カルチャー記事制作）	2				○						
	新聞論	2				○						
	映画史	2				○						
	映像表現論	2				○						
	映像表現Ⅱ	2				○						
	スタジオ番組制作	2				○						
	ドラマ演習Ⅱ（演出）	2				○						
	アートアニメーション	2				○						
	ジャーナリズム史	2					○					
	マンガ論	2					○					
	スポーツジャーナリズム論	2					○					
	ITジャーナリズム論	2					○					
	テレビ企画構想演習	2					○					
	出版文化論	2						○				
	ジャーナリズム記事制作	2						○				
	ドキュメンタリー論	2						○				
	映像コンテンツと著作権	2						○				
	コンピュータ基礎	2	○									
情報表現デザイン	2	○										
コミュニケーション論基礎	2	○										
社会調査論	2	○										
情報社会と法★	2	○	○									
情報セキュリティ★	2	○	○									
コンピュータ概論	2	○										
写真表現Ⅰ	2		○									
構成・シナリオ演習	2		○									
著作権ビジネス論	2		○									
統計学入門	2		○									
文章演習Ⅱ	2		○									

区分	科目	単位	開講セメスター								卒業要件単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8		
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
選 択	海外研修 A ★	2		○							一 般 選 択 科 目	68
	コンピュータ応用	2		○								
	写真表現Ⅱ	2			○							
	記号論	2			○							
	海外研修 B ★	2			○							
	キャリア研究 ★	2			○							
	文献講読	2			○							
	アニメーション文化論	2				○						
	メディア効果論	2				○						
	言語コミュニケーション論	2				○						
	ハードウェア ★	2			○	○						
	社会調査の統計学	2					○					
	異文化コミュニケーション	2						○				
	情報学特殊講義 C	2						○				

(注) ★印が付いている科目は、他学科の開講科目一覧表にも同一名称の科目がありますが、自学科の科目としてしか履修できません。

10. 主専攻と副専攻について

情報学部では、みなさんの学習領域を明確にし、その領域に関する専門知識を深めることを目的とした主専攻制度と、さらに学習領域を拡大し、知識を広げることを目的とした副専攻制度を取り入れています。

各学科で用意している領域は以下の通りです。

- ▽ 情報システム学科：システム開発領域、情報デザイン領域
- ▽ データサイエンス学科：計算社会科学領域、プロジェクトマネジメント領域
- ▽ メディア表現学科：ソーシャルメディア領域、マスメディア領域

I. 主専攻について

- ▽ 主専攻が認定される領域は自学科の領域のみです。
- ▽ 領域に配置された科目を 30 単位以上 修得することで、その領域を主専攻と認定します。具体的な科目は各学科の開講科目一覧を参照してください。
- ▽ 2 つの主専攻が認定されることもあります。

II. 副専攻について

- ▽ 副専攻が認定される領域は自学科を含むすべての領域です。
- ▽ 領域に配置された科目を 16 単位以上 修得することで、その領域を副専攻と認定します。具体的な科目は各学科の開講科目一覧を参照してください（他学科の学生が履修できない科目もあるので時間割で確認してください）。ただし同一名称の科目が複数の学科の開講科目一覧表にある場合、その科目は自学科の科目として認定されます。
- ▽ 副専攻が認定されるためには、いずれかの領域で主専攻が認定されていなければなりません。
- ▽ 同じ領域が同時に主専攻、副専攻と認定されることはありません。
- ▽ 複数の領域が副専攻と認定されることもあります。

各学科で認定される領域

所属学科\領域	システム 開発領域	情報デザイン 領域	計算社会科学 領域	プロジェクト マネジメント 領域	ソーシャル メディア 領域	マスメディア 領域
情報システム学科	◎	◎	△	△	△	△
データサイエンス学科	△	△	◎	◎	△	△
メディア表現学科	△	△	△	△	◎	◎

◎：主専攻、副専攻のいずれも認定可 △：副専攻のみ認定可

III. その他

- ▽ 主専攻と副専攻については卒業要件としません。主専攻および副専攻を認定されていなくても各学科で必要とされる卒業要件を満たしていれば卒業できます。
- ▽ 主専攻と副専攻については事前に登録しません。セメスターごとに成績をチェックして、主専攻、副専攻の科目を履修し終えた時点で主専攻、副専攻と認定されます。

11. 他学科開講科目および他学部開講科目

所属学科の専門教育科目の理解を深めるための関連科目および関連分野の研究を深めることに意義があると認められた健康栄養学部の授業科目および所属学科以外の授業科目を履修することができます。

なお、他学科および他学部の専門教育科目は、24 単位（うち他学部は6 単位）まで各学科の専門教育科目の「選択科目」に充当することができます。

12. 特定有資格者に対する単位認定

各種検定試験の合格者および指定された基準以上の成績取得者は、申請により指定科目の単位が認定されます。詳細は、「情報学部特定有資格者に対する単位認定細則」をご覧ください。なお、所属学科が定める資格以外は認定されません。

13. 履修単位数

1学期に履修登録できる単位数は、全学共通科目、共通教育科目、外国語科目、専門教育科目をあわせ **22 単位以内**と定められています。ただし、データサイエンス学科の「情報処理実践演習 A」「学外実習」は制限に含みません。

編入学生については、1 年間に履修登録できる単位数を**合計で 52 単位以内**とします。

14. 履修単位数制限緩和

前学期の成績で「AA」評価および「A」評価を 18 単位以上修得した場合、26 単位まで履修を認めます。ただし、編入学生については適用されません。

また、教員免許状取得に必要な「教育の基礎的理解に関する科目等」については、「AA」評価および「A」評価の計算に含めません。

15. 勉学状況にともなう指導勧告

下記の基準に従い、学部教務委員会が次の措置をとります。

- ▽ 1 セメスター（1 年春学期）終了時の総単位数が 12 単位未満（教職科目は含まない。以下同じ。）：原則として保証人および本人に連絡して面談を実施します。学習態度の改善の見込みがないと判断された場合は、自主退学を勧告します。
- ▽ 4 セメスター（2 年秋学期）終了時の総単位数が 48 単位未満：原則として保証人および本人に連絡して面談を実施します。
- ▽ 6 セメスター（3 年秋学期）終了時の総単位数が 90 単位未満：原則として保証人および本人に連絡して面談を実施します。
- ▽ 2～5 の各セメスターにおける修得単位数が 12 単位未満：保証人および本人に対して警告文を郵送します。
- ▽ 上記の判断基準にかかわらず、学習態度が芳しくない場合、各学科の判断により保証人および本人に連絡して面談を実施したり、自主退学を勧告したりすることもあります。

16. 教職課程の履修

「高等学校教諭一種免許状（情報、数学）」「中学校教諭一種免許状（数学）」の教育職員免許状が取得可能です。登録方法や必要な費用などは、「教職課程履修のてびき」を参照してください。なお、教職課程への登録は、希望者の数により人数を制限する場合があります。

17. 社会調査士の取得

データサイエンス学科およびメディア表現学科では、「社会調査士」の資格要件に対応する科目を設置しています。「社会調査士」とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」のことです。決められた授業科目の単位を修得し、卒業時に資格取得申請を行います。詳細についてはオリエンテーションで説明します。対応科目は次の通りです。

▽データサイエンス学科

社会調査協会 標準カリキュラム区分	科目名	単位	開講 セメスター	社会調査協会 標準カリキュラム区分	科目名	単位	開講 セメスター
A	社会調査論	2	1	D	調査集計法A	2	3

B	マーケティング ・リサーチ演習	2	5	E	調査集計法B	2	4
C	統計学入門	2	2	G	社会調査演習Ⅰ 社会調査演習Ⅱ	2 2	5 6

▽メディア表現学科

社会調査協会 標準カリキュラム区分	科目名	単位	開講 セメスター	社会調査協会 標準カリキュラム区分	科目名	単位	開講 セメスター
A	社会調査論	2	1	D	社会調査の統計学	2	5
B	メディア調査研究法A (量的調査研究の技法)	2	4	E	メディア調査研究法B (多変量解析の技法)	2	4
C	統計学入門	2	2	G	メディア調査研究法C (総合演習)	4	5～6

※一般社団法人社会調査協会の科目認定状況により、計画は変更になる場合があります。

18. 司書課程の履修

図書館における専門的職員を「司書」と呼びます。図書館法では公共図書館における司書の国家資格を定めています。データサイエンス学科では、司書資格を取得するための司書養成課程を設けています。

司書資格取得のためには、以下の単位修得が必要です。適宜説明会を実施しますので、取得を希望する方は参加してください。

法令上の科目名	本学の科目名	単位	履修 方法	開講セメスター						備考
				1	2	3	4	5	6	
				1 年次		2 年次		3 年次		
生涯学習概論	生涯学習論	2	必修			○				
図書館概論	図書館概論	2		○						
図書館制度・経営論	図書館制度・経営論	2				○				
図書館情報技術論	図書館情報技術論	2					○			
図書館サービス概論	図書館サービス概論	2			○					
情報サービス論	情報サービス論	2				○				
児童サービス論	児童サービス論	2							○	
情報サービス演習	情報サービス演習	2					○			週 2 回
図書館情報資源概論	図書館情報資源概論	2			○					
情報資源組織論	情報資源組織論	2				○				
情報資源組織演習	情報資源組織演習	2				○				週 2 回
図書館基礎特論	現代社会と著作権	2	選択 (2 科目以上 を修得する こと)		○	○				学部共通科目
図書館サービス特論	図書館サービス特論	2					○			
図書館情報資源特論	データベース入門	2		○	○					学科必修科目
図書・図書館史	図書・図書館史	2			○					
図書館総合演習	ゼミナールⅡ (※)	2							○	学科必修科目

※「ゼミナールⅡ」は、特定教員の授業のみ司書資格取得のための単位として使用可

* 開講学期・曜日・時限・抽選登録の有無は、各学部学科のページで確認してください。

情報学部情報社会学科	備考
人間愛と情報社会	他学科生は予備登録
社会心理学	
社会調査論	
ビジネスデータ処理演習	
統計学入門	
図書館情報資源概論	
ビッグデータ解析の社会への応用	
調査集計法A	
マーケティング	
情報社会の分析と理解	
情報資源組織論	
情報社会のビジネスモデル	
計算社会科学特講A	
マーケティング・リサーチ	
調査集計法B	
情報資源組織演習	
情報社会のサービス企画	
計算社会科学特講B	
情報社会論	
マーケティング・リサーチ演習	
企業と社会における問題の発見と解決	
情報と企業のイノベーション	
メディア・ビジネス論	
現代社会の消費者行動	
データモデリング	
ビジネス発想法	
情報サービス産業の理解	
インターネットと情報セキュリティ	
企業活動と情報システム	
プログラミング演習A	
プロジェクトマネジメント特講A	
システム開発技法	
図書館情報技術論	
情報サービス論	
プログラミング演習B	
プロジェクトマネジメント特講B	
知的財産法	
情報サービス演習	
情報システムの品質と信頼性	
情報化要求の分析とソリューションの提案	
情報デザイン設計	
経済性の科学	
情報社会における都市計画	
ビジネス法	
不確実性とリスクのマネジメント	
プレゼンテーション技法	
情報処理実践演習C	

情報学部情報メディア表現学科	備考
コミュニケーションメディア論	
インタラクティブメディア概論	
コンテンツ産業論	
広告概論	
広報・PR論	
アニメーション制作B（CGアニメーション）	
SNS文化論	
広告産業論	
ブランド論	
インターネットビジネス論	
パーソナルデータ倫理・法制	
メディア文化論	
出版論	
ジャーナリズム論	
放送論	
映像プロデュース論	
新聞論	
映画史	
映像表現論	
ジャーナリズム史	
マンガ論	
スポーツジャーナリズム論	
ITジャーナリズム論	
映像コンテンツと著作権	
著作権ビジネス論	
記号論	
メディア効果論	
言語コミュニケーション論	
異文化コミュニケーション	
健康栄養学部管理栄養学科	備考
臨床心理学概論	他学部生は抽選登録（20名）
健康心理学	他学部生は抽選登録（20名）
発達心理学	他学部生は抽選登録（20名）
心理アセスメント	他学部生は抽選登録（20名）
生命倫理（情報・オンデマンド）	他学部生は抽選登録（20名）
サプリメントと健康	他学部生は抽選登録（20名）
笑顔コミュニケーション論	他学部生は抽選登録（20名）
アロマセラピーと健康	他学部生は抽選登録（20名）
アロマセラピーコーディネート	他学部生は抽選登録（20名）

* 開講学期・曜日・時限・抽選登録の有無は、各学部学科のページで確認してください。

情報学部情報システム学科	備考
オフィスソフトウェア入門	
ビジュアル数学	
微分積分	
データと統計的見方	
マクロプログラミング	
線形代数学	
オブジェクト指向プログラミング	
Webプログラミング	
インターネット	
こどもとメディア	
情報システムとインタラクション	
情報数学序論	
数と図形の世界	
流通情報システム	
会計情報システム	
現代暗号技術	
代数学	
情報可視化	
IoTプログラミング	
医療情報システム	
オープンソースソフトウェア	
オペレーティングシステム	
行政情報システム	
グラフと組合せ論	
確率論	
クラウドサービス開発演習	
スマートフォン・アプリケーション制作	
Webマイニング	
オープンデータ活用演習	
ネットワーク運用管理	
インストラクショナルデザイン	
解析学概論	
幾何学	
サイバーセキュリティ	
機械学習応用システム	
Webページ制作	
デジタルクリエイション	
作曲法	
デジタルデッサン	
ゲーム企画論	
社会情報論	
コンテンツプランニング	
コンピュータ・グラフィックス概論	
色彩論	
デザイン史	
ゲームクリエイション	
デジタルコミック制作	
コンテンツの世界観構築	
コンピュータ・グラフィックス制作	

画像処理	
ライトノベルの創作と編集	
電子出版とクロスメディア	
空間デザイン	
ゲームエンジン	
ヒューマンインタフェース	
映像・アニメーション表現	
エディトリアルデザイン	
Webデザイン	
サウンドデザイン	
ゲームプログラミング	
コンテンツマーケティング	
キャラクターモデリング	
アニメーション文化論	
認知科学	
サウンドエフェクトデザイン	
社会と教育	
地理情報システム	
メディアコンテンツプログラミング	
UXデザイン	
アニメーション制作	
情報システム特論A	
情報システム特論B	
情報システム特論C	
情報システム特論D	

情報学部情報メディア表現学科	備考
コミュニケーションメディア論	
コンテンツ産業論	
広告概論	
広報・PR論	
アニメーション制作B（CGアニメーション）	
SNS文化論	
広告産業論	
ブランド論	
インターネットビジネス論	
パーソナルデータ倫理・法制	
メディア文化論	
出版論	
ジャーナリズム論	
放送論	
映像プロデュース論	
新聞論	
映画史	
映像表現論	
ジャーナリズム史	
マンガ論	
スポーツジャーナリズム論	
ITジャーナリズム論	
映像コンテンツと著作権	
著作権ビジネス論	
記号論	
メディア効果論	
言語コミュニケーション論	
異文化コミュニケーション	
健康栄養学部管理栄養学科	備考
臨床心理学概論	他学部生は抽選登録（20名）
健康心理学	他学部生は抽選登録（20名）
発達心理学	他学部生は抽選登録（20名）
心理アセスメント	他学部生は抽選登録（20名）
生命倫理（情報・オンデマンド）	他学部生は抽選登録（20名）
サプリメントと健康	他学部生は抽選登録（20名）
笑顔コミュニケーション論	他学部生は抽選登録（20名）
アロマセラピーと健康	他学部生は抽選登録（20名）
アロマセラピーコーディネート	他学部生は抽選登録（20名）

* 開講学期・曜日・時限・抽選登録の有無は、各学部学科のページで確認してください。

情報学部情報システム学科	備考
オフィスソフトウェア入門	
ビジュアル数学	
微分積分	
データベース	
アルゴリズムとデータ構造	
データと統計的見方	
マクロプログラミング	
線形代数学	
オブジェクト指向プログラミング	
Webプログラミング	
インターネット	
こどもとメディア	
情報システムとインタラクション	
データベース応用	
情報数学序論	
数と図形の世界	
流通情報システム	
会計情報システム	
現代暗号技術	
代数学	
情報可視化	
IoTプログラミング	
医療情報システム	
オープンソースソフトウェア	
オペレーティングシステム	
行政情報システム	
データマイニング	
グラフと組合せ論	
確率論	
クラウドサービス開発演習	
スマートフォン・アプリケーション制作	
Webマイニング	
システム開発事例研究	
オープンデータ活用演習	
テキストマイニング	
ネットワーク運用管理	
インストラクショナルデザイン	
解析学概論	
幾何学	
サイバーセキュリティ	
機械学習応用システム	
Webページ制作	
デジタルクリエイション	
作曲法	
デジタルデッサン	
ゲーム企画論	
社会情報論	
コンテンツプランニング	
コンピュータ・グラフィックス概論	

色彩論	
デザイン史	
ゲームクリエイション	
デジタルコミック制作	
コンテンツの世界観構築	
コンピュータ・グラフィックス制作	
画像処理	
ライトノベルの創作と編集	
電子出版とクロスメディア	
空間デザイン	
ゲームエンジン	
ヒューマンインタフェース	
映像・アニメーション表現	
エディトリアルデザイン	
サウンドデザイン	
ゲームプログラミング	
コンテンツマーケティング	
キャラクターモデリング	
認知科学	
サウンドエフェクトデザイン	
社会と教育	
地理情報システム	
メディアコンテンツプログラミング	
UXデザイン	
アニメーション制作	
情報システム特論A	
情報システム特論B	
情報システム特論C	
情報システム特論D	

情報学部メディア表現学科 他学部・他学科履修可能科目（2022～2024年度入学生）

情報学部情報社会学科	備考
人間愛と情報社会	他学科生は抽選登録（999名）
社会心理学	
ビジネスデータ処理演習	
図書館情報資源概論	
ビッグデータ解析の社会への応用	
調査集計法A	
マーケティング	
情報社会の分析と理解	
情報資源組織論	
情報社会のビジネスモデル	
計算社会科学特講A	
マーケティング・リサーチ	
調査集計法B	
情報資源組織演習	
情報社会のサービス企画	
計算社会科学特講B	
情報社会論	
マーケティング・リサーチ演習	
企業と社会における問題の発見と解決	
情報と企業のイノベーション	
メディア・ビジネス論	
現代社会の消費者行動	
データモデリング	
ビジネス発想法	
情報サービス産業の理解	
インターネットと情報セキュリティ	
企業活動と情報システム	
プログラミング演習A	
プロジェクトマネジメント特講A	
システム開発技法	
図書館情報技術論	
情報サービス論	
システム設計	
プログラミング演習B	
プロジェクトマネジメント特講B	
知的財産法	
情報サービス演習	
情報システムの品質と信頼性	
システム分析	
情報化要求の分析とソリューションの提案	
情報デザイン設計	
経済性の科学	
情報社会における都市計画	
ソフトウェアの構成とテスト	
ビジネス法	
不確実性とリスクのマネジメント	
プレゼンテーション技法	
情報処理実践演習C	

情報学部メディア表現学科 他学部・他学科履修可能科目（2022～2024年度入学生）

健康栄養学部管理栄養学科	備考
臨床心理学概論	他学部生は抽選登録（20名）
健康心理学	他学部生は抽選登録（20名）
発達心理学	他学部生は抽選登録（20名）
心理アセスメント	他学部生は抽選登録（20名）
生命倫理（情報・オンデマンド）	他学部生は抽選登録（20名）
サプリメントと健康	他学部生は抽選登録（20名）
笑顔コミュニケーション論	他学部生は抽選登録（20名）
アロマセラピーと健康	他学部生は抽選登録（20名）
アロマセラピーコーディネート	他学部生は抽選登録（20名）

情報学部情報システム学科 他学部・他学科履修可能科目(2025 年度入学生)

* 開講学期・曜日・時限・抽選登録の有無は、各学部学科のページで確認してください。

情報学部データサイエンス学科	
人間愛と情報社会	他学科生は抽選登録(999名)
社会心理学	
社会調査論	
ビジネスデータ処理演習	
統計学入門	
図書館情報資源概論	
ビッグデータ解析の社会への応用	
情報サービス産業の理解	
インターネットと情報セキュリティ	
企業活動と情報システム	
情報学部メディア表現学科	
コミュニケーションメディア論	
インタラクティブメディア概論	抽選登録(30名)
コンテンツ産業論	
著作権ビジネス論	
健康栄養学部管理栄養学科	
臨床心理学概論	他学部生は抽選登録(20名)
健康心理学	他学部生は抽選登録(20名)
発達心理学	他学部生は抽選登録(20名)
心理アセスメント	他学部生は抽選登録(20名)
生命倫理(情報・オンデマンド)	他学部生は抽選登録(20名)
サプリメントと健康	他学部生は抽選登録(20名)
笑顔コミュニケーション論	他学部生は抽選登録(20名)
アロマセラピーと健康	他学部生は抽選登録(20名)
アロマセラピーコーディネート	他学部生は抽選登録(20名)

情報学部データサイエンス学科 他学部・他学科履修可能科目(2025 年度入学生)

* 開講学期・曜日・時限・抽選登録の有無は、各学部学科のページで確認してください。

情報学部情報システム学科	
オフィスソフトウェア入門	
ビジュアル数学	
微分積分	
データと統計的見方	
マクロプログラミング	
線形代数学	
オブジェクト指向プログラミング	
Web ページ制作	
デジタルクリエイション	
作曲法	
デジタルデッサン	
ゲーム企画論	
社会情報論	
コンテンツプランニング	
コンピュータ・グラフィックス概論	
色彩論	
デザイン史	
ゲームクリエイション	
情報学部メディア表現学科	
コミュニケーションメディア論	
コンテンツ産業論	
著作権ビジネス論	
健康栄養学部管理栄養学科	
臨床心理学概論	他学部生は抽選登録(20 名)
健康心理学	他学部生は抽選登録(20 名)
発達心理学	他学部生は抽選登録(20 名)
心理アセスメント	他学部生は抽選登録(20 名)
生命倫理(情報・オンデマンド)	他学部生は抽選登録(20 名)
サプリメントと健康	他学部生は抽選登録(20 名)
笑顔コミュニケーション論	他学部生は抽選登録(20 名)
アロマセラピーと健康	他学部生は抽選登録(20 名)
アロマセラピーコーディネート	他学部生は抽選登録(20 名)

情報学部メディア表現学科 他学部・他学科履修可能科目(2025 年度入学生)

* 開講学期・曜日・時限・抽選登録の有無は、各学部学科のページで確認してください。

情報学部情報システム学科	
オフィスソフトウェア入門	
ビジュアル数学	
微分積分	
データベース	
アルゴリズムとデータ構造	
データと統計的見方	
マクロプログラミング	
線形代数学	
オブジェクト指向プログラミング	
Web ページ制作	
デジタルクリエイション	
作曲法	
デジタルデッサン	
ゲーム企画論	
社会情報論	
コンテンツプランニング	
コンピュータ・グラフィックス概論	
色彩論	
デザイン史	
ゲームクリエイション	
情報学部データサイエンス学科	
人間愛と情報社会	他学科生は抽選登録(999 名)
社会心理学	
ビジネスデータ処理演習	
図書館情報資源概論	
ビッグデータ解析の社会への応用	
情報サービス産業の理解	
インターネットと情報セキュリティ	
企業活動と情報システム	

健康栄養学部管理栄養学科	
臨床心理学概論	他学部生は抽選登録(20 名)
健康心理学	他学部生は抽選登録(20 名)
発達心理学	他学部生は抽選登録(20 名)
心理アセスメント	他学部生は抽選登録(20 名)
生命倫理(情報・オンデマンド)	他学部生は抽選登録(20 名)
サプリメントと健康	他学部生は抽選登録(20 名)
笑顔コミュニケーション論	他学部生は抽選登録(20 名)
アロマテラピーと健康	他学部生は抽選登録(20 名)
アロマテラピーコーディネート	他学部生は抽選登録(20 名)

学部教務委員会規程

(設置)

第1条 本学の各学部、に、学部教務委員会を置く。

(審議事項)

第2条 学部教務委員会は、学則の定める学部の目的に添って、学部の教務に関する次の事項について審議する。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 授業計画に関する事項
- (3) 定期試験に関する事項
- (4) 進級及び卒業に関する事項
- (5) 成績及び履修に関する事項
- (6) その他教務に関して学部が必要と認めた事項

(委員の任期)

第3条 本委員会は、当該学部より選出された複数の委員により構成され、その任期は原則として2年とする。ただし、再選を防げない。

(委員長等)

第4条 本委員会は、委員長を1名置く。また、必要に応じ副委員長を置くことができる。

(委員長の任期)

第5条 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出され、その任期は1年とする。ただし、再選を妨げない。

(委員会の開催)

第6条 委員長は、原則として毎月1回定例委員会を招集し、議長を務める。また、委員長は、緊急の議題があるときは、臨時委員会を招集することができる。

2 委員長は、教務委員長と緊密に連携し、任務に当たる。

(副委員長)

第7条 副委員長は委員長を補佐し、委員長不在のときはその任務を代行する。

(会議録)

第8条 本委員会の事務処理及び会議録の作成保管は、所管の大学事務局学事部が行う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、大学審議会の議を経て学長がこれを行う。

附 則

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

大学等名	文教大学（情報学部）	申請レベル	応用基礎レベル
教育プログラム名	文教大学情報学部 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）	申請年度	令和8年度



文教大学情報学部 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）

◆プログラムの目的

情報サービス産業を中心に、データサイエンティスト、エンジニアなどとして実務をリードできる人材の育成

◆身に付けられる能力

高度情報社会においてデータサイエンスを実践するための知識とスキル

◆開講科目の構成と修了要件

必修	情報社会の分析と理解(2単位) 情報社会のサービス企画(2単位)
選択必修	基礎プログラミングA(2単位) 基礎プログラミングB(2単位) プログラミング入門(2単位) メディア調査研究法A(量的調査研究の技法)(2単位)

※必修科目2科目4単位、選択必修1科目2単位以上の計3科目6単位以上にて修了



情報学部開講の専門科目（ゼミナール・卒業研究など）の履修



◆想定される卒業後の進路

データサイエンティスト システムエンジニア AIエンジニア セキュリティエンジニア
Webデザイナー ゲーム・CGクリエイター 広告クリエイター
メディア・プランナー マーケティング・リサーチャー コミュニティ・マネージャーなど